

2013（平成 25）年度

# 事業報告書

（2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日まで）

学校法人 宮城学院



# 目次

<b>I. 学校法人の概要</b> .....	<b>- 1 -</b>
1. 法人の事業目的 .....	- 1 -
2. 設置する学校・学部・学科等 .....	- 1 -
3. 宮城学院の沿革 .....	- 1 -
4. 組織 .....	- 3 -
5. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数.....	- 4 -
6. 役員の概要 .....	- 5 -
7. 評議員の概要.....	- 6 -
8. 教職員の概要.....	- 7 -
9. 所在地一覧 .....	- 8 -
<b>II. 事業の概要</b> .....	<b>- 9 -</b>
1. 学院全体に関わる事業 .....	- 9 -
(1) 中長期ビジョン策定と財政計画について .....	- 9 -
(2) 管理運営について.....	- 9 -
(3) 施設設備等の整備事業 .....	- 10 -
(4) 戦略的広報の展開と中期計画について.....	- 10 -
(5) 危機管理対策の充実について .....	- 10 -
(6) 募金事業について.....	- 11 -
(7) 被災学生生徒等の支援と奨学金事業の充実について.....	- 11 -
(8) 社会貢献・地域連携事業の推進について .....	- 11 -
(9) 卒業生との連携について.....	- 12 -
(10) 創立 130 周年記念事業計画について.....	- 12 -
(11) その他.....	- 12 -
2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項 .....	- 12 -
(1) 教育内容の充実 .....	- 13 -
(2) 地域連携の推進 .....	- 13 -
(3) 学生支援の充実 .....	- 13 -
(4) 学生生活支援について .....	- 13 -
(5) 就職支援について.....	- 14 -
(6) 教職支援について.....	- 14 -
(7) 学生募集 .....	- 14 -
(8) 国際交流.....	- 14 -
(9) 大学院改革 .....	- 14 -
(10) 後援会活動の充実および保護者等との連携.....	- 15 -
(11) 生涯学習 .....	- 15 -
3. 宮城学院女子大学附属幼稚園 .....	- 15 -
4. 宮城学院中学校高等学校.....	- 16 -
(1) 教育計画全般.....	- 16 -

(2) 宗教教育活動.....	- 16 -
(3) 学習指導.....	- 16 -
(4) 生徒指導・生徒会指導.....	- 16 -
(5) 進路指導.....	- 16 -
(6) 生徒募集・広報活動.....	- 17 -
(7) 国際交流・海外研修.....	- 17 -
(8) 青桜シャロン寮・スクールバス.....	- 17 -
<b>III. キリスト教センター及び資料室の事業.....</b>	<b>- 18 -</b>
1. キリスト教センター.....	- 18 -
2. 資料室.....	- 18 -
<b>IV. 補助活動事業.....</b>	<b>- 19 -</b>
1. 音楽教室の事業.....	- 19 -
2. 学寮.....	- 19 -
3. スクールバス.....	- 19 -
<b>V. 財務の概要.....</b>	<b>- 20 -</b>
<b>VI. 資料.....</b>	<b>- 28 -</b>
1. 理事会、評議員会の開催状況.....	- 28 -
(1) 理事会の開催状況.....	- 28 -
(2) 常任理事会の開催状況.....	- 29 -
(3) 評議員会の開催状況.....	- 33 -
2. 法人、大学、中学校高等学校及び幼稚園の主要な行事等の実施経過.....	- 34 -
(1) 法人（理事会・評議員会を除く）.....	- 34 -
(2) 大学院・大学.....	- 35 -
(3) 中学校高等学校.....	- 37 -
(4) 大学附属幼稚園.....	- 38 -
3. 補助金の状況.....	- 40 -
4. 入学志願者、合格者、入学者数.....	- 43 -
5. 2013 年度就職内定状況.....	- 44 -

# I. 学校法人の概要

## 1. 法人の事業目的

寄附行為第3条において、「学校法人宮城学院は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に従い、女子及び幼児に学校教育を行うことを目的とする。」と定め、大学院、大学、高等学校、中学校、幼稚園及びその他の教育研究施設を設置し、女子の初等・中等教育及び高等教育を担い、広く社会に有能な人材を育成することを目標としています。

## 2. 設置する学校・学部・学科等

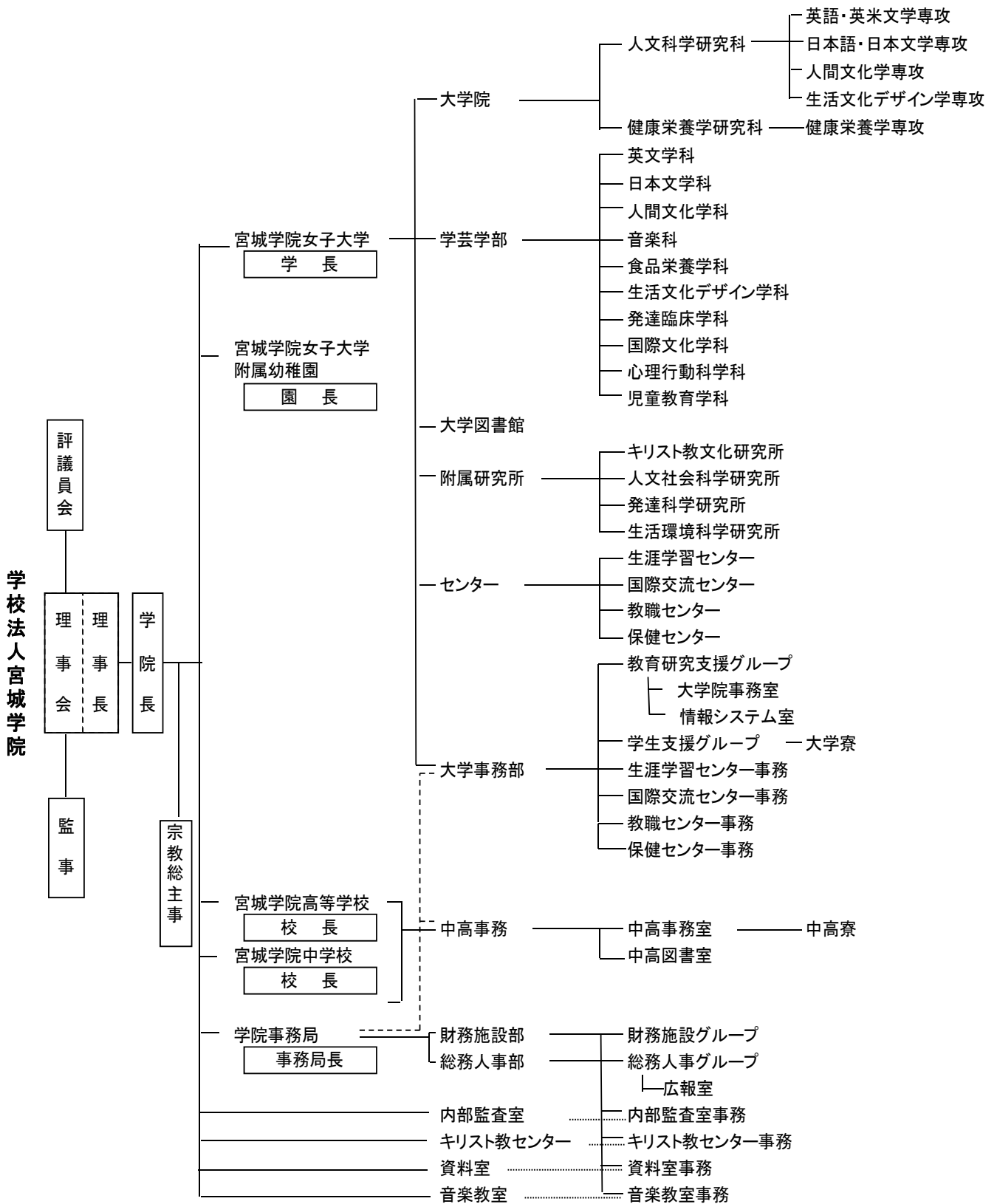
設置する学校	設置年	学部・学科等
宮城学院女子大学	1949年	大学院 人文科学研究科 健康栄養学研究科 学芸学部 英文学科 日本文学科 人間文化学科 音楽科 食品栄養学科 生活文化デザイン学科（生活文化学科） 発達臨床学科 国際文化学科 心理行動科学科 児童教育学科
宮城学院高等学校	1948年	全日課程 普通科
宮城学院中学校	1947年	
宮城学院女子大学附属幼稚園	1956年	

## 3. 宮城学院の沿革

- 1886年 押川方義、ウイリアム・E・ホーイが中心となり宮城女学校創立  
初代校長にエリザベス・R・プールポー就任
- 1889年 東三番丁162番地に竣工した新校舎に移転
- 1900年 1年制聖書専攻科設置
- 1910年 校旗・校章制定
- 1911年 高等女学校に準ずる学校となる
- 1912年 3年制家政専攻科設置
- 1913年 3年制英文専攻科設置
- 1914年 理事会組織の発足と寄附行為（the Constitution）の制定
- 1916年 3年制音楽専攻科設置、2年制聖書専攻科設置
- 1931年 音楽科に師範科及び研究科を設置
- 1941年 財団法人宮城女学校設立
- 1943年 宮城女学校を廃止、宮城高等女学校設置、専攻部を専攻科と改称
- 1946年 学則改正によりキリスト教主義学校へ復す。専門学校令により宮城学院女子専門学校設置（育児科、国語科、外国（英）語科、音楽科）
- 1947年 新学制により宮城学院中学校設置

1948年	新学制により宮城学院高等学校設置
1949年	宮城学院女子大学設置（学芸学部英文学科、音楽科）
1950年	宮城学院女子短期大学設置（家政科、国文科）
1951年	学校法人宮城学院設立認可
1955年	宮城学院女子短期大学保育科設置
1956年	宮城学院女子短期大学附属幼稚園設置
1959年	大学学芸学部に家政学科を設置
1964年	大学学芸学部になんてん文学科、短期大学に教養科を設置
1980年	東二番丁から現在地である桜ヶ丘へ総合移転
1986年	創立100周年
1988年	短期大学に国際文化科を設置
1995年	大学学芸学部に人間文化学科を設置、大学院人文科学研究科を設置（英語・英米文学専攻、日本語・日本文学専攻）
1999年	大学院人文科学研究科に人間文化学専攻を設置
2000年	大学学芸学部に食品栄養学科、生活文化学科、発達臨床学科、国際文化学科を設置
2001年	宮城学院女子短期大学廃止
2005年	大学院人文科学研究科に生活文化デザイン専攻を設置
2006年	創立120周年（礼拝堂増築） 高校コース制導入
2007年	大学学芸学部に心理行動科学科、児童教育学科を設置
2008年	大学院に健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
2009年	大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻及び大学学芸学部生活文化学科の名称を大学院人文科学研究科生活文化デザイン学専攻及び大学学芸学部生活文化デザイン学科に変更

## 4. 組織



## 5. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数

(2013年5月1日現在)

				入学定員	学生・生徒・園児数					収容定員	定員比
					1年	2年	3年	4年	合計		
大 学 院	修 士 課 程	人 文 科 学 研 究 科	英語・英米文学専攻	4	0	1			1	8	0.13
			日本語・日本文学専攻	4	1	4			5	8	0.63
			人間文化学専攻	4	3	5			8	8	1.00
			生活文化デザイン学専攻	4	0	0			0	8	0.00
	健康栄養学専攻	4	3	6			9	8	1.13		
大学院合計				20	7	16			23	40	0.58
大 学	学 部	英文学科	90	93	70	86	122	371	360	1.03	
		日本文学科	100	115	98	116	116	445	400	1.11	
		人間文化学科	90	55	65	105	107	332	360	0.92	
		音楽科	35	30	30	30	25	115	140	0.82	
		食品栄養学科	100	104	104	109	105	422	400	1.06	
		生活文化デザイン学科	70	88	65	72	71	296	280	1.06	
		発達臨床学科	80	88	90	89	77	344	320	1.08	
		国際文化学科	90	84	72	90	131	377	360	1.05	
		心理行動科学科	50	57	52	64	50	223	200	1.12	
		児童教育学科	50	56	58	65	64	243	200	1.22	
大学合計				755	770	704	826	868	3168	3020	1.05
大学院・大学合計				775	777	720	826	868	3191	3060	1.04
高等学校				260	196	181	152		529	780	0.66
中学校				160	73	77	77		227	480	0.47
幼稚園				定員	3歳	4歳	5歳		125	152	0.82
				152	37	46	42				
総合計					1083	1024	1097	868	4072	4492	0.91



## 6. 役員の概要

定数 理事 17 名、監事 2 名 (2014 年 3 月 31 日現在)

理事監事の別	氏名	選任条項	担当等
理事長	小 林 信 夫	8-1-7 学識経験者 9-1 理事長	
理事	海 野 道 郎	8-1-1 学院長	
理事	海 野 道 郎	8-1-2 学長	
理事	松 本 利 勝	8-1-2 校長	
理事	高 田 紀 代 志	8-1-3 副学長	広報担当の理事 (広報会議規程第 3 条)
理事	戸 野 塚 厚 子	8-1-3 副学長	
理事	本 田 辰 雄	8-1-4 事務局長	
理事	真 弓 政 弘	8-1-5 教職員評議員	
理事	清 水 恵 子	8-1-6 同窓会長	
理事	千 葉 義 雄	8-1-7 学識経験者	常務理事 (細則第 10 条)
理事	松 館 忠 樹	8-1-7 学識経験者	
理事	宮 城 光 信	8-1-7 学識経験者	
理事	大 泉 一 貫	8-1-7 学識経験者	
理事	佐 久 間 敬 子	8-1-7 学識経験者	
理事	高 橋 和 人	8-1-7 学識経験者	
理事	石 川 幹 子	8-1-8 評議員	
理事	田 中 弘 志	8-1-8 評議員	
監事	保 坂 和 男	17	
監事	武 田 雅 比 人	17	

※は常任理事会構成員

## 7. 評議員の概要

定数 35 名 (2014 年 3 月 31 日現在)

氏 名	選任条項
海野道郎	19-3-1 学院長
海野道郎	19-3-1 学長
松本利勝	19-3-1 校長
本田辰雄	19-3-1 事務局長
深澤昌夫	19-3-2 教職員
平本福子	19-3-2 教職員
大島 衣	19-3-2 教職員
阿部ひとみ	19-3-2 教職員
平林 健	19-3-2 教職員
真弓政弘	19-3-2 教職員
鈴木理恵	19-3-2 教職員
井上富美子	19-3-2 教職員
太田富美子	19-3-2 教職員
残間雅敏	19-3-2 教職員
稲井 慶子	19-3-3 同窓会
伊藤香美子	19-3-3 同窓会
岩井 陽子	19-3-3 同窓会
鎌田 さゆり	19-3-3 同窓会
門間 陽子	19-3-3 同窓会
長井 祥子	19-3-3 同窓会
太田 道子	19-3-3 同窓会
内海 祥子	19-3-3 同窓会
深田 寛	19-3-4 教職者
保科 けい子	19-3-4 教職者
塚本 恭子	19-3-4 教職者
花輪 公雄	19-3-5 学識経験者
橋本 章	19-3-5 学識経験者
石川 幹子	19-3-5 学識経験者
加藤伊佐雄	19-3-5 学識経験者
みつ井 せい一	19-3-5 学識経験者
なか里 博司	19-3-5 学識経験者
佐治 勇	19-3-5 学識経験者
佐藤 博美	19-3-5 学識経験者
菅原 裕典	19-3-5 学識経験者
田中 弘志	19-3-5 学識経験者

## 8. 教職員の概要

(2013年5月1日現在)

( )は前年度

区分	教育職員	教務職員 <sup>6</sup>	事務職員	合計
法人			12 (14) <sup>1</sup>	12 (14)
大学	98 (96) <sup>2</sup>	26 (26) <sup>7</sup>	49 (54) <sup>3</sup>	172 (176)
附属幼稚園	5 (5)			5 (5)
中学校	20 (20) <sup>4</sup>	1 (1)	1 (1)	22 (22)
高等学校	31 (30) <sup>5</sup>	1 (1)	4 (4) <sup>8</sup>	36 (35)
合計	154 (151)	28 (28)	65 (73)	248 (252)

※1 嘱託事務職員 1名含む。

※2 特任教員 11名含む。

※3 嘱託事務職員 11名含む (再雇用、育休・病休代替含む)。

※4 常勤講師 4名 (うち養護教諭 1名) を含む。

※5 養護教諭 (専任) 1名及び常勤講師 5名を含む。

※6 教務職員とは大学は副手、中学校高等学校は実習助手を指す。

※7 特別嘱託職員 1名含む。

※8 特別嘱託職員 1名含む。

## 9. 所在地一覧

学校法人宮城学院	仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目 1-1	
宮城学院女子大学	同	上
宮城学院高等学校	同	上
宮城学院中学校	同	上
宮城学院女子大学附属幼稚園	同	上



## II. 事業の概要

2013年度は、学生・生徒の確保において、高校は予算目標数を、大学においては入学定員を確保することができました。就学人口の減少や経済状況などという基本的に厳しい環境の中にはありますが、現実的には、学校間競争において選ばれる学校という観点からは依然として厳しい状況にあり、大学及び中学・高校、そして附属幼稚園の教学計画の策定に費やした一年でした。

教育計画は、福音主義キリスト教に基づく女子教育として、少子高齢化社会の時代において、女子教育のパイオニアである本学院がどのような学生・生徒を育て、社会に送り出していくのかを明らかにするものとなります。そのためには、建学以来の確固たる理念と歴史を踏まえながら、本学院に集う一人ひとりが、新たな責任と使命を自覚し、行動することが求められます。

本学院は、創立130周年を2年後に控えています。建学の精神に基づくキリスト教教育を普遍的なものとして更に充実させるよう、今日の諸課題に取り組み、社会から愛される学院であるように改革を進めなければなりません。

### 1. 学院全体に関わる事業

#### (1) 中長期ビジョン策定と財政計画について

中学・高校の生徒数減少が続き、2012年度以降には、大学においても学生の確保が厳しくなっている中で、設置各学校の新たな教育計画の検討が進められました。大学では、2012年度に設置された企画調整会議を中心に、学部学科再編と新学科設置や、教養教育等の検討が進められましたが2013年度内に計画を確定させるには至らず、2013年度末に新たな検討組織にて2016年度新学部・学科の設置を目標に検討が進められています。中学・高校においては、新中高ビジョンの策定が進められ法人においても協議を続けています。また、大学から幼保連携型認定こども園の設置構想が提出され法人ともども検討中です。いずれも、2014年度中に成案をまとめて理事会審議を経て決定を目指すこととなります。

このような状況から、新たな財政計画は、大学及び中高の新たな教育計画における中長期的な学生生徒等数規模に基づき、新たな教育計画の実現に向けた事業の財源確保と収支均衡の財政構造に向けて2014年度中に検討が進められることとなります。

#### (2) 管理運営について

##### ア 管理運営体制等の整備

2010年度に理事会運営体制等の改善を図るため、理事定数・構成、役員選出方法、キリスト者条項及び評議員構成等の見直し等について、寄附行為及び同施行細則を改正しました。その後も理事会運営体制等検討委員会において、さらなる経営・運営体制等の改善を図るべく検討を進め、2013年度においては、理事構成の一部とその選任方法の見直しを中心に寄附行為及び同施行細則の改正を行い10月に文部科学大臣の認可を得ました。このたびの改正は、副学長制と役職上理事の導入、教職員選出理事と同窓会選出理事の見直しを行い、理事会及び常任理事会機能の強化を行いました。併せて、役職上理事等に関わる職務権限と責任を明確にするための規程を整備しました。

##### イ 監査の充実・強化

学校法人の業務及び財産の状況等を監査する監事監査と内部監査室との連携を進めるとともに、公認会計士監査を含めた各監査機能の有機的な連携を図り監査の充実に取り組みしました。内部監査では、事務局業務の執務・執行状況を監査し内部監査実施報告書としてまとめました。監事監査は、理事会・評議員会への出席、監事懇談会及び内部監査室との監査計画に係る協議等を行うとともに公認会計士と定期的な意見交換を行いました。公認会計士監査は年10回、定期監査、現金実査確認の監査、決算監査として行い、さらに、理事長等との懇談や監事との懇談、常任理事会メンバーと監事との合同懇談会を行うなど、

監査充実化に向けて取り組みました。

#### ウ 外部有識者懇談会の設置

本学院における大学教育及び社会貢献等について、教育・研究水準の更なる向上を目指し、学外の有識者を中心に構成される外部有識者懇談会を設立しました。本学の現状に対する評価と提言をいただき、新たな教育計画等の策定・推進に資するものとししました。有識者は、仙台経済界及び大学関係者で構成し、理事長の私的諮問機関として位置付け、本年 2 月に第 1 回の会合を行いました。年 4 回程度の開催を目途としています。

#### エ 職員の資質向上を目指した職員人事制度等の充実

学校諸改革が不可欠な今日の経営・運営において、その実務を担う職員の業務遂行力を高めることが重要であり、職員の育成に重点を置いて研修の充実に取り組みました。具体的には、私大連研修、通信研修、派遣研修及び管理職研修などで、特に若手研修に重点を置いて実施しました。人事制度における資格制度の一部見直しを行い、中堅職員レベルに相当する格付けを従来の主事から、主事と主査の 2 段階に分け、育成と評価をより実効的に行えるよう昇格制度を見直しました。また、事務組織においては、各部署における所管業務の見直しを進め、事務効率向上の観点から一部業務の所管を見直すとともに、大学における学部・学科再編の検討に併せて学科改組等準備室を設置し専任職員を配置しました。

### (3) 施設設備等の整備事業

2013 年度は、厳しい予算状況から、雨水漏水対策、環境衛生対策及び設備等の経年劣化等に対処する必要最小限の改修・更新等を中心に実施しました。また、現桜ヶ丘校地に総合移転して 33 年が経過したため、今後の施設設備の保全計画の策定にも取り組みましたが、10 年で総額 15 億円程の費用が必要となり資金計画において困難を来しています。

なお、これまで中断していた全館トイレ改修計画の検討を進めた結果、3 月理事会において総額 208,000 千円のトイレ改修計画を 2014 年度予算に計上しました。

主な事業の実施状況は以下のとおりです。

- ① 空中歩廊屋根改修千円<14,679 千円>
- ② 実験台アスベスト処理工事（講義館・中高理科室）<3,115 千円>
- ③ 暖房設備機器交換・暖房配管等修繕工事<4,830 千円>
- ④ 大学講堂脇トイレ一部洋式便器化<2,200 千円>
- ⑤ テニスコート、フェンス改修<11,970 千円>
- ⑥ 中高保健室・プラクティスルーム冷房化<6,016 千円>
- ⑦ 中高教室黒板張替<2,047 千円>
- ⑧ 幼稚園わくわくランドの改修<3,087 千円>

### (4) 戦略的広報の展開と中期計画について

学院広報会議において、2012 年度に策定した学院広報中期計画に基づき、ステークホルダーへの情報発信力の強化策として、法人及び大学サイトの全面リニューアルを行うとともに学院広報誌等の内容を刷新しました。また、学生生徒確保対策としての募集広報の充実化を図ることとし、「女性の生き方を考える大学セミナーキャラバン 2013」を山形市、福島市にて開催するとともに、新聞連合広告への掲載強化、さらには、東北各県の JR 主要駅（八戸駅、秋田駅、盛岡駅、郡山駅、山形駅、福島駅）への看板広告を行いました。

### (5) 危機管理対策の充実について

東日本大震災及び福島原発事故後、学院全体の防災対策について危機管理委員会を定期的に開催して取り組んできました。2013 年度は、当初に「危機対応力整備中期計画」として、危機管理体制の充実と教育訓練としての防災訓練について検討すべき課題等を確認し、学院防災コーディネーターの指導・助言により整備を進めました。「学生生徒園児及び家族のための危機対応ガイド」

として、自然災害以外の危機事象を含め、地震から風水害、火災・救急、トラブル・事故・事件、個人情報、心とからだ、感染症等、多様な危機に対応する内容のマニュアルを作成しました。また、防火・防災管理規程を改正し整備するとともに、災害対策用備蓄品としての飲料水 1500 本の補充等を行いました。

#### (6) 募金事業について

教育環境整備資金は、2013 年度から新たに教育用施設設備の整備・充実と学生生徒支援として奨学制度の充実を図ることとし募集を開始しました。2013 年度の寄付金額は 15,247 千円となりました。寄附者には礼状とともにポストカードを粗品として送りましたが、記念品の見直しを検討をしています。

2016 年度に創立 130 周年を迎えることから、創立 130 周年記念事業募金を 2014 年度から 3 年間実施することとしました。募金目標は 2 億円とし、事業計画としては、森のこども園園舎建設、(仮称) 学術情報館建設、奨学金の充実、教育設備の拡充等とし、募金推進委員会を設置して募金活動を進めることにしています。

#### (7) 被災学生生徒等の支援と奨学金事業の充実について

ア 2012 年度に引き続き、東日本大震災による被災学生生徒等に対して、高校、中学、幼稚園については宮城県の授業料等減免措置を講じるとともに、被災した学生生徒等の経済的負担を軽減し修学の機会を確保することを目的とした修学支援給付奨学金事業を行いました。また、被災した受験生に関して 2014 年度入学検定料を免除しました。

実施状況は、以下のとおりです。

○授業料減免： 高校 82 名、中学 37 名、幼稚園 10 名 計 40,489 千円

○修学支援給付奨学金： 大学 39 名、高校 1 名、中学 1 名 計 26,267 千円

○入学検定料免除： 大学 24 名、高校 16 名、中学 0 名 計 1,252 千円

イ 被災支援関係以外の奨学金事業では、宮城学院奨学基金へ 28,511 千円（経常費から 10,000 千円繰入れ、同窓会寄附 1,200 千円、大学後援会寄附 2,000 千円、教育基金果実 15,311 千円）を繰り入れました。2013 年度から開始した、宮城学院プールボー奨学金（入学前予約給付型奨学金）は、県外受験者に限定したこと等から、申請者が大学においては 0 名となったため、条件の緩和を含めて制度の見直しについて 2015 年度入試に向けて検討することとなります。

##### ○宮城学院奨学会

給付 大学 49 名、高校 9 名、中学 7 名 計 24,866 千円

貸与 大学 39 名、高校 1 名 計 26,155 千円

貸与総額は、2013 年度末で 403,807 千円

##### ○宮城学院プールボー奨学金

高校 2 名、中学 1 名 計 285 千円

##### ○宮城学院女子大学特別奨学金

給付 13 名 計 2,600 千円 貸与 6 名 計 2,700 千円

##### ○宮城学院同窓会奨学金（給付）

大学 6 名、高校 5 名、中学 4 名 計 2,400 千円

#### (8) 社会貢献・地域連携事業の推進について

2013 年度は、大学の社会貢献・地域連携に関して、河北新報社トップと理事長の懇談を契機とし、実務的には大学側と河北新報社との協議により、学校法人宮城学院と河北新報社との間で、連携協力に関する基本合意書の締結を行いました。今後、双方の機能・資源を活用し、地域社会の発展、新聞を活用した本学中学・高校、大学の授業の実践や教材開発、並びに NIE（「教育に新聞を」）の発展に関する諸事業を行うことになりました。

また、先に触れた外部有識者懇談会の主要な柱として本学の社会貢献を討議の柱に据えています。このような諸状況の中で、大学においては、地域連携センターを新たに設置し、生涯学習、リエゾン・アクションセンター(LAC)、そして国際交流を柱に据えた取り組み体制を整備しました。特に大震災に係る復興支援としては、LACを基幹的センター機能として、災害復興支援ボランティア活動を継続的に行っています。

地域連携に関しては、危機管理委員会においても近隣町内会との防災協定、仙台市との協定を視野に検討を進めており、2014年度中に実行するよう取り組んでいます。

#### (9) 卒業生との連携について

永い歴史と伝統を有する東北最大の女子総合学園として、同窓会は重要なパートナーとの認識から、法人と同窓会との連携を進めていくことにしています。2013年度は、社会で活躍している卒業生についてのデータを集約し活用するため、MG卒業生バンクを構築することとし、同窓会と法人合同の委員会を設置して検討を進めました。MG卒業生バンクは、学生及び生徒のキャリア教育や就職支援にも活用できるように、卒業生に積極的に支援をいただくことを想定しています。引き続き、法人ホームページでも登録の協力をお願いし、教職員へも情報の提供を呼びかけて卒業生データの蓄積を進めています。

#### (10) 創立130周年記念事業計画について

2016年度に創立130周年を迎えることから、まずは創立130周年記念事業計画委員会を設置し、併せて記念事業募金を2014年度からの3年間実施することとしました。特に記念事業の中心となる、学生のキャンパスライフの充実と学習環境整備として新館を建設すること、認定こども園を本学幼稚園の地域貢献事業として、森のこども園設置に向けて園舎の建設を行うことになりました。

創立130周年を契機とし、学院が更なる社会的責任を果たすため、建学の精神の高揚を事業の中心に据えて、大学及び中学・高校、幼稚園の教育計画の推進とともに中長期的展望に立って学院整備事業に取り組むこととなります。

#### (11) その他

##### 青桜シャロン寮(中高寮)について

中学・高校寮生の減少と寮収支の悪化等から、中学・高校において青桜シャロン寮への募集を2013年度で終了することとなり、それを受けて在寮生の取り扱いと今後の寮の活用について常任理事会内に小委員会を設置して対応等を検討しました。その結果、さくら寮は、入寮希望者全員の入寮に応えられない状況等から、青桜シャロン寮を新たに大学寮として活用するとともに、中高在寮生は12名(中学1名、高校11名)は、引き続き卒業時まで在寮をすることとして、年度末に寮室の改修と設備を更新し14名の学生を受け入れました。

## 2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項

2013年度は2012年度から行っている大学改革への一連の動きを押し進めました。体制整備として企画担当の学長補佐及び企画調整会議を設置し、更に企画担当学長補佐の下に各課題に対応するタスクフォースを設置して議論を交わしました。その結果、大学や各学科、大学広報が抱えるウィークポイントもいくつか判明し、よりよい学修環境を整えるために行える改革は随時実施していくことを再確認しました。今後更に2020年の抜本的な組織改革に向けて検討を継続していきます。

また、学長のガバナンス体制の強化として副学長制度の導入及び協議会規程の制定を実施しました。従来から協議会は大学の諸問題を審議する運営機関として設置されていましたが、「教学にかかわる全学的な重要な事項を審議し、教授会の運営にあたる」ことを改めて明文化し役割を明確にしました。

これらの全学的な動きを踏まえて、各部局において次の事業を実施しました。



## (1) 教育内容の充実

ア 2013年度は大学改革（企画調整会議）の一環として、キャリア教育を再検討しました。具体的には、本学の特色である女性教育を更に充実させるために、教養教育とキャリア教育を統合させた本学らしいリベラルアーツ教育（「MGUスタンダード」）を検討し、女性教育の充実のほか、1年次から4年次まで体系的なキャリア教育を行う仕組みを構築しました。具体的な科目の詳細については2014年度に検討します。

(ア) MGUスタンダードの内容は次のとおりです

- ・一般教育科目に女性教育科目・キャリア形成科目の充実および創設
- ・基礎スキル科目（日本語教育科目・英語教育科目・情報処理科目）の充実
- ・教育課程外のキャリア形成教育として、「キャリアデザイン」等の認定科目を創設

イ 前期と後期の2回実施する授業評価アンケートについて、非常勤講師に関するアンケート結果を各学科長に報告しました。このことにより、非常勤講師がかかわる部分については各学科の対応も加わることとなり、より効果的な授業改善が可能になりました。

ウ 卒業時の満足度アンケートを、紙媒体による調査から「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT」を利用したウェブ調査に変更しました。

## (2) 地域連携の推進

生涯学習講座や公開講座、自治体での調査研究、学生ボランティアやプロジェクト活動などの地域貢献活動を組織的に行い、地域との連携を推進することを目的として地域連携センターを設置しました。河北新報社とは連携協定を締結し、せんだい男女共同参画財団とはエル・パーク仙台への復興支援活動パネルの貸出展示の計画を進めました。また、リエゾンアクションセンターでは、東日本大震災で大きな被害を受けた小学生への継続支援として、大原小学校・南光台小学校への学習支援ボランティア、本学へ小学生を招いてのサマーカレッジ、大原小学校でのウィンターカレッジを開催しました。

## (3) 学生支援の充実

ア 社会人や多様な事情を持つ学生の修学を支援するため、2013年度から長期履修制度を導入しました。修業年限を最大8年まで延長することができ、計画的な履修ができるようになりました。

イ 学生に多様な学びの場を提供するため、神戸女学院大学と国内交換留学制度の協定を締結しました。

ウ 教務システム「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT」の本格的運用を開始し、全学生を対象としたWeb登録や学生生活情報のWeb提供を実施しました。このことにより学生の利便性が向上し、より学生サービスが充実しました。

エ 情報教室3教室の情報機器更新を実施しました。2教室は運用管理コストや災害時の対応を考慮したシンクライアントを導入し、1教室は講義で使用するアプリケーションの動作環境を優先的に考慮しサーバー・クライアントで更新しました。

オ 大学図書館ではOPAC用PCをシンクライアントに置き換え、経費の削減とセキュリティーの強化を実施しました。また、一般教育科目「基礎演習」（1年次）での図書館ガイダンスや学習支援企画、就職活動支援関連の企画展、図書館関連分野への「就活支援講座」「公共図書館実習」を実施しました。

## (4) 学生生活支援について

ア 学生証の全学年ICカード化を実施しました。このことにより、大学図書館利用の簡便化や授業出欠等への基礎ができました。

イ 経済的理由により就学をあきらめる学生がいないよう、申請・支給データを解析し、学生の実態にあった奨学金制度全体の効果的な運用を検討し、既存奨学金の募集要件改定案を策定しました。

ウ 2013年4月から大学寮としてさくら寮の運営が開始されました。学生寮運営の新たな試みとして近隣住民の方々を招待した地域交流行事を開催し、70名以上の老若男女が訪れ寮生と交流しました。また、青桜シャロン寮を2014年度から大学が管理運営することが決定し、中高生徒と大学生との共同生活に向け中高教員と連携をとりながら準備を進めました。

#### (5) 就職支援について

ア キャリアカウンセラー資格取得者を職員として採用し、学生相談室と連携しながら就職活動を行う学生に対して個別対応を実施しました。

イ 従来から実施してきた講演会・セミナー等就職支援行事は「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT」を利用した情報提供を併用したことで、低学年の学生参加数が増加しました。また、1、2年生向けの企画やワークショップなど低学年からの就職支援を実施しました。キャリアデザイン科目の設置については、MGUスタンダードにあわせて内容を検討し、2015年度から各学科に専門科目としてキャリア科目を開設することが決定しました。

#### (6) 教職支援について

ア 教職課程連絡運営委員会を新たに発足させ、教務部と連携を強化し教職課程の運営にあたりました。

イ 教員免許取得を希望する学生の学習環境整備として、パソコンや教員採用にかかる図書等を設置した自習室を新たに設置しました。

#### (7) 学生募集

ア AO入試を導入しました。2013年度は初年度ということもあり、英文学科、日本文学科、人間文化学科、国際文化学科の4学科で募集を行い、応募者は英文学科13名、日本文学科17名、人間文化学科3名、国際文化学科8名となりました。

イ 通学圏内となってきた山形県からの志願者獲得の施策として、A日程一般入試の地方試験会場に山形試験会場を新設しました。山形試験会場での受験者は77名でした。

ウ 推薦入試制度について、評定を中心として現行制度の見直しを実施しました。より多くの受験者獲得を目指して見直しを継続していきます。

エ オープンキャンパスの実施について内容及び開催時期の見直しを行いました。2013年度は新たな企画として「仕事図鑑」を実施したところ、高校生の関心が非常に高いことがわかりました。今後も更なる工夫を加えていきます。また、オープンキャンパス当日はMG・PRプロジェクトに参加している学生がキャンパスツアーを行いました。

オ 2013年度は出張授業リストをホームページで公開し、ダイジェスト版の資料を高校訪問時に配布しました。依頼件数で昨年度比26%増、派遣した教員数は44%増となりました。本学の認知度アップに向け周知方法等を更に検討します。

カ 初めての試みとして2014年度AO入試及び推薦入試合格者を対象に「早期合格者の集い」を実施し、生徒220名、保護者9名が参加しました。

#### (8) 国際交流

ア 高雄大学と本学はすでに協定校となっていますが、2013年度は高雄大学アジア語文学科と本学国際文化学科とで新たに学術交流に関する合意書を締結し連携強化を行いました。

イ 外務省推進・国際交流基金主催カケハシ・プロジェクトに採択され、11月1日～14日に渡って本学学生25名が北米地域との青少年交流を行いました。このプロジェクトへの参加学生は英文学科・日本文学科・音楽科・発達臨床学科・国際文化学科の学生でした。帰国後の報告会は12月に学内に向けた報告会と1月に地元新聞社にも声掛けし地域に向けた報告会の合計2回実施しました。

#### (9) 大学院改革

大学院生の研究環境改善として、各専攻に配分していた図書購入費を院生各自に配分しました。

#### (10) 後援会活動の充実および保護者等との連携

行事は例年通り、後援会入会式、後援会総会、地区後援会を開催しました。総会及び地区後援会において他大学と比較して早期から本学が設置している学生相談室の強みを活かした保護者向け講演を実施し、好評を得ました。また、地区後援会では、保護者と大学教職員との懇談を実施したことで、参加した保護者の方々に大学の様子をより理解していただく事ができました。

#### (11) 生涯学習

既存講座に加え、「大人のための童話学」「保護者のための教育心理学」、また宮城県の委託事業（みやぎ県民大学）として様々な分野から「女性」について論じる「女性たちよ！」などを新規開講し、多くの受講者を集めました。3月に行われた「大人のためのオープンキャンパス」も好評で、新規受講者の掘り起しに成功しました。

### 3. 宮城学院女子大学附属幼稚園

2013年度は幼稚園将来構想委員会を発足させ、社会問題として顕著化している待機児童問題への対応や幼稚園園児数の増加に向けた具体的な施策を検討しました。仙台市へのヒヤリングを行いながら、幼稚園の方向性、教育課程の評価、教育環境などについて議論を重ね、認定こども園（森のこども園）構想を策定して理事会へ上程し、2016年度設置を目指し園舎の建設等が進められることが決定しました。将来的な計画を進めつつ、現場の教育では、昨年度改訂の新・教育課程に基づき、キリスト教の教えを基調とした「のびのび野外遊び」の保育に力を入れてきました。また、保育者養成機関としての役割を果たしながら、地域との協働やホームページの充実にも取り組んできました。

- (1) キリスト教に基づいた保育の在り方を研修し、保育を充実させてきました。具体的には以下のとおりです。
  - ア 月刊誌「キリスト教保育」をもとに一人一人が研鑽を積み、幼児に与える礼拝の言葉やそのポイントを学ぶと同時に、日々の祈りやクリスマスなどの行事の話を充実させてきました。
  - イ 「建学の精神研修会」には全職員が参加して研修を深めました。
- (2) 「のびのび野外遊び」を通して「三つの心」と「三つの自立」を目指した新・教育課程を実践し、以下のような成果を得ました。
  - ア さまざまな植物や虫などに触れ、探究心と好奇心そして意欲を向上させました。
  - イ 自然の大きさや美しさにふれ、感動したことを伝え合ったり表現したりさせることができました。
  - ウ わくわくらんどを利用した野外展示や自然物を使った造形活動を行い、表現意欲を向上させることができました。
  - エ 新たに「正調すずめ踊り」に取り組み、桜ヶ丘地区の文化祭に出演し地元の人々と交流を深めました。
  - オ 小学校を計画的に訪問して親しみをもたせたり、合同の活動を通して交流を深めたりしました。また質問紙「小学校Q&A」を通して、学校理解を深めました。
  - カ 「ぼっぼくらぶ」は未就園児クラスとしての遊びを工夫しながら、保護者支援にも力を入れ、29組の親子に対して年間53回を計画的に実施しました。
- (3) 園庭とわくわくらんどの改修により、園児の遊びを広げ、その質を高めことができました。見晴台を園庭からわくわくらんどに移し、園庭斜面には新しく小道と坂を整備しました。斜面の活用は園児バランス感覚や登攀力などの身体機能を高め、困難なことに挑戦しようとする自主的な遊びの質を向上させました。
- (4) ホームページの内容充実と更新に取り組む、本園のよさの理解と期待に結びつけることができました。

ア 日々の保育の様子を伝えることができ、本園の教育活動に対する理解が深まりました。

イ 「のびのび野外遊び」の楽しさや活動の多様さ、その効果を知らせることができ、入園児の増加につながりました。

(5) 実習環境の整備と異校種交流に努め、以下のような成果を得ました。

ア 発達臨床学科、児童教育学科の実習生の他、食品栄養学科の卒論学生を受け入れ、環境を整えて支援してきました。

イ 中学校 2 校、小学校 1 校から生徒を受け入れ、職場体験が充実できるように配慮してきました。また、小学生の活動が広がるように教員同士の交流にも力を入れてきました。

## 4. 宮城学院中学校高等学校

### (1) 教育計画全般

建学の精神である福音主義キリスト教とスクールモットーに基づいて本学の女子教育の現代社会における使命を確認しつつ、さらにその存在意義を知らしめるための諸方策を検討し、具体的な教育プログラムとして実践できるよう検討を進めました。具体的には「中高ビジョンと教学改革の全体像」(2012 年度理事会決定)に基づきつつ、中高として主体的に新ビジョンの策定作業を行いました。その結果、神と人に仕えるグローバル人材育成を目指すことを核とした礼拝を中心とするキリスト教教育の更なる展開のための方策、入試のあり方、生徒数減対策、生徒の学力向上対策・財政の改善、中高一貫のための行事、組織・機構の改編の観点から検討しました。

### (2) 宗教教育活動

キリスト教教育の根幹である礼拝を遵守し、その活動を充実させました。聖書の授業、礼拝のみならず、学校に貢献された人々の墓参り等の宗教的諸行事・奉仕活動を通して、建学の精神「神を畏れ、隣人を愛する」の精神が継承されていくような実践を行いました。

### (3) 学習指導

学力向上をさらに目指すべく中高一貫カリキュラムの検討を行いました。具体的には 2014 年度後期から英語特別プログラム (TOEIC600 点取得) を導入することを決定しましたが、英語を牽引力として他教科の学力も伸ばすべく、検討を進めました。教員の授業力向上のため研究授業、また数学科をはじめとして研修の学びを全教員で分かち合うことができました。また外部模試を有効活用し、進路指導に役立てることができました。補習授業については、学習効果を考慮した期間設定を検討するなど生徒の受験指導体制の充実が計られました。また受験指導上必要に応じて外部講師もチューターによる指導がなされました。

### (4) 生徒指導・生徒会指導

キリスト教の価値観に基づいた生徒一人ひとりに対する教育的配慮がなされるような体制 (校務委員会などでの教員間の問題意識共有、二人から三人に増員したカウンセラーとのさらなる連携等) や発達段階に応じたきめの細かい指導の実践を保護者との連携の中で行い一定の効果が見られるようになりました。また、生徒の自主・自立を育てる中高各生徒会活動については、班員数の減少に伴い、班を精選し中高を統合する方向性を持ちながら中高 6 年間で生徒を成長させることを確認しました。学内外のボランティア活動については従来通り積極的な取り組みができました。生徒会主導で行われている NPO (マリ支援、ACE のフェアトレード) を通じての世界の諸問題の学びは、次年度から始まるグローバルスタディーズに繋がる有意義な活動と位置づけられます。

### (5) 進路指導

進路指導は生徒に対して単に大学進学だけではなく、神様から与えられた人生をどう生きるのかという問いかけをすることが前提です。その上で具体的な進路についての多様な選択肢を紹介し、かつその上で選択した各自の夢実現を支援することが大切です。AD コースについては生徒の学力向上意識を維持させること。そのための担任会による模試などによって得られた情報共有な

どを行いながら生徒ひとりひとりのニーズにあったきめ細かい指導を行いました。また次年度から AD 担任を特化し、教員と生徒が一体となって国公立私学難関校への進学実績を上げることを目指しています。CR については、全学協議会などでの話し合いを通じて宮城学院女子大学との高大連携をさらに強化する諸方策が生まれたことは画期的なことでした。それによってさらに内部進学率を上げることも可能となってきたこと、また他大学と連携する準備も進めることができたことから将来、生徒の進路選択の幅が広がる可能性が生まれています。

#### **(6) 生徒募集・広報活動**

生徒募集については従来行っている市内全小・中学校、県内各地の主要小・中学校の訪問、また県内塾との連携を強めました。また各中学校主催入試説明会、生徒・保護者対象の学校紹介、本学主催の県内 6 地区の学校説明会、小中学校・塾教員対象学校説明会・入試説明会、生徒・保護者対象の学校紹介、体験授業を含む中高のオープンキャンパス、中高入試対策講座、私立中学高等学校連合会主催合同入試説明会を行いました。学校紹介に際して新しく導入した学校紹介 DVD の利用であり、一定の効果がありました。今年度は次年度に向けてより効果的な広報戦略を立てるための準備を整える一年でした。次年度に向けた対策として校務分掌として広報部長職を設け入試委員長と一体となり法人とも協力しながら HP、パンフレット、ポスターも含め、より効果のある戦略的な生徒募集・広報活動を行うこととしました。

#### **(7) 国際交流・海外研修**

今年度はカナダの PCS (Pacific Christian School) 生徒、教員の来校による交流が与えられ、生徒にとってよき交わりと学びが与えられました。またオーストラリアコンコーディアカレッジ校長も来校し今後のさらなる交流について意見交換ができました。年度末にははじめてのニューヨーク研修を行いました。今までのホームステイ中心のプログラムとはまた異なった「学ぶ喜び」を強く感じさせるものになりました。今後の本校の海外研修については今回のニューヨーク研修を維持、大切にしつつ、今まで相互に交流してきた関係校との絆も大切にしたいプログラムとするべく準備をしています。

#### **(8) 青桜シャロン寮・スクールバス**

今年度で中高の教育寮としての青桜シャロン寮はその長い歴史を閉じることとなり、新規の入寮生は以後募集しないことになりました。これは近年の入寮生の減少傾向(6月の時点で13名)であり、また財政的にも補助事業であるとはいえ、毎年の赤字額は大きかったことからの苦渋の決断でした。次年度からは大学寮となり大学生との共同生活となることが決定しました。ただし、寮生は卒業するまで寮での生活は保障されることとなりました。生活指導などのあり方については今後の大きな検討課題です。なお、中高生と大学生との共同生活をするにあたっては大学の寮運営委員会と中高の寮運営委員会での話し合いによって検討されます。

スクールバスについては、費用対効果、生徒募集、生徒のニーズをも配慮した快適な通学環境を整えるという観点も鑑みつつ、現行の4路線の運行のあり方を検討してきました。各路線の生徒を集めその利用について現状の把握につとめ、意見を聞く機会を設けたのもその一例です。スクールバスについては幼稚園、大学生の利用もあり、次年度は法人全体(スクールバス検討小委員会)で検討することとなりました。その際、利用者の生徒、また保護者の意見、要望も傾聴し、利便性、運行経路、乗降場所等の検討を進めることとなりました。

### Ⅲ. キリスト教センター及び資料室の事業

#### 1. キリスト教センター

キリスト教センターは、キリスト教センター及び大学宗教センターの事業を以下のとおり実施した。

- (1) 全学院教職員礼拝（原則月の第3水曜日 16:30～17:00）は、定期礼拝を8回（4・5・6・7・10・11・1・2月）特別礼拝として公開クリスマス礼拝（12/13）の他、東日本大震災の被災者を覚えての記念礼拝（3/11）を開催した。
- (2) クリスマス事業として、キャンパスクリスマス装飾（12/2～12/20）、クリスマス・イルミネーション点灯式（12/2）、クリスマス・チャペルコンサート（「恵みのときを共に」12/7）、ハートフルミュージアム“クリスマスのよこ美”展（幼稚園児、中高生徒、大学・生涯学習センターの学生の絵画、書、写真作品などの展示・公開 12/2～12/20）、宮城学院クリスマスカードの製作、クリスマス献金（大学宗教センターと併せて実施 12/3～12/21）などを実施した。
- (3) ハートフルボランティア・サポート事業として、大学9グループ、中高3グループに助成金を交付しボランティア活動を支援した。
- (4) 学院内外の説教担当先生が会しての礼拝説教者懇談会を3月6日に開催した。
- (5) 刊行物として、『GLORY TO GOD』（教職員礼拝説教集、7月・12月・3月発行）『礼拝ガイドブック』『チャペルガイド』『ハートフルボランティア報告書』『憩いのみぎわ』を作成し、教職員に配付、また関係機関に寄贈・送付した。
- (6) 学生（及び教職員）の定期礼拝（授業開講期の月・水・金曜日 11:50～12:10）は、71回実施した（4月～1月）。特別礼拝としてクリスマス礼拝（12/12）、卒業礼拝（3/18）を実施した。
- (7) 特別行事としてはキリスト教教育特別集会（6/12）を実施した。
- (8) ガイダンスとして、宗教センター・YWCA ガイダンス（新入生対象、4/6）、礼拝奏楽ガイダンス（音楽科4年生対象、4/6）を実施した。
- (9) 礼拝説教・特別行事講演の収録集『あかり』を作成し、全学生に配付、また関係機関に寄贈・送付した。
- (10) 大学 YWCA は、聖歌隊の礼拝賛美奉仕・施設訪問演奏、聖書研究、ボランティア活動など活発に行った。

#### 2. 資料室

新たな収集資料は、卒業生より寄贈の宮城学院高校元教諭島史也氏年賀状等 24 点。学内から定礎や掛け軸等 34 点。図書資料を中高図書館より 158 冊、同窓会より 112 冊。

レファレンスは 53 件あり、「コペンハーゲン大学マーガレット・メール先生 明治期の音楽教育について」、「和泉短期大学片山知子先生 昭和 30 年幼稚園開園当時の園長シップル先生や当時の幼稚園について」、「帝京大学佐野友恵先生 1913（大正 2）年幼稚園保姆無試験検定認可や当時の学科カリキュラムについて」、「宮城学院大学在校生卒業論文研究 宮城学院茶道部の変遷」「桜ヶ丘町内会 桜ヶ丘への移転日について」等。学外・学内、地域住民からと幅広く問い合わせがきました。レファレンスから、様々な関心が集まっていることがわかるので、宮城学院の精神や歴史を広く周知し、後世に継承するためにも資料の整理を進めることは重要です。

## IV. 補助活動事業

### 1. 音楽教室の事業

幼少期からの一貫した音楽専門教育を目標とする教育課程および弦楽アンサンブルコースと研究コースを合わせ、後期には80名（のべ95名）の生徒数でした。

7月に大学講堂で全教室生による『第54回発表会』を実施。弦楽アンサンブルコースでは、12月に泉パークタウン タピオに於いて『クリスマスコンサート』を実施しました。

ピアノ専門コース生に及川浩治特任准教授の特別レッスンを開講し、成果を上げました。

初期課程をはじめ、教育課程の充実を図るために更なる成果を目指すこととしました。

### 2. 学寮

2013年度の寮生数は次のとおりです。

(2013年5月1日現在)

青桜シャロン寮	さくら寮	合計
13名	155名	168名

### 3. スクールバス

生徒募集対策のため、通学・通園の便を良くするために、中学校高等学校では北東部地域（鶴が丘・松陵・向陽台・明石台・将監・桂）、北西部地域（住吉台・中山・吉成・国見・貝ヶ森）、北部地域（富谷・大和・三本木・古川）、南部地域（名取・茂庭・愛子）の4系統、幼稚園では園を中心に①川平・中山・国見ヶ丘・長命ヶ丘方面、②上谷刈・泉中央・将監・桂方面、③東勝山・虹の丘・八乙女方面、④台原・北仙台・上杉・北根方面の市内4系統のスクールバスを運行しました。

## V. 財務の概要

2013年度決算は、前年度と比べると学生・生徒数の減少に伴い帰属収入が減少し厳しい予算運営となりましたが、学院全体としての大規模事業が特になかったこともあり、収支としては収入超過の決算となりました。学校会計基準では、会計年度毎に財務三表(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表)の作成と公表が義務づけられており、以下、本年度決算の概要について報告します。

1. 消費収支計算書は、当該年度の消費収入と消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

2013年度は、帰属収入が5,039百万円となりました。納付金収入は、ほぼ予算通り3,754百万円です。特に増減の大きかった科目としては、補助金収入が被災学生生徒を含む奨学金給付者の予算見込み減や経常費補助金算定基準における圧縮率減等から全体で685百万円と予算比85百万円減、中途退職者による退職資金収入が138百万円で56百万円増となりました。また、退職給与引当金において計算基準の変更等に関わる調整が必要となり、その結果、退職給与引当金戻入額117百万円を計上することになりました。

基本金は、全体で328百万円を組入れました。特に第2号基本金では、学術情報館建設資金100百万円、教育環境整備資金10百万円を組入れました。第3号基本金では、奨学基金28百万円、教育基金1百万円組入れました。帰属収入から基本金組入れを差し引いた消費収入は4,710百万円となり、予算比77百万円増加となりました。

支出の部では、人件費は3,149百万円となり予算比35百万増ですが主に退職者増に伴う退職金の42百万円の増加によるものです。教育研究経費は1,266百万円で予算比7百万円の減です。予算比で増減が大きい科目では、修繕費が37百万円の減、光熱水費が電気料金値上げ等もあり36百万円の増などとなっています。管理経費は222百万円で予算比18百万円の減です。

この結果、消費支出は4,652百万円となり予算比21百万円の増となり、消費収支差額は、58百万円の収入超過となりました。収支の健全性を見る上での基本的指標である帰属収支差額比率は、7.6%(前年度1.2%)と改善しています。

繰越消費収支差額は、前年度1,036百万円から収入超過額58百万円を差し引き、翌年度繰越消費支出超過額は978百万円となりました。

2. 資金収支計算書は、学校法人の諸活動に関わる資金の収入及び支出の内容、支払資金の状況を明らかにしたもので、資金の動きのすべてが対象となります。

2013年度の資金収入は、前年度繰越支払資金2,618百万円を含めた資金収入全体が8,172百万円となり、前年度と比べて2,264百万円減となりました。資金収入から支出合計5,589百万円を控除した次年度繰越支払資金は、2,583百万円となり、前年度に比べると33百万円の減となりました。



収入の部では、納付金収入、手数料収入、寄付金収入、補助金収入及び資産運用収入は消費収入と同じですが、前年度比較では、特に学生生徒数の減少に伴う納付金収入が 95 百万円の減、2013 年度は新規の借入金が無かったこと(2013 年度は新寮建設資金 850 百万円を借入。)、前受金収入 66 百万円減、各種引当特定資産からの繰入収入 771 百万円減となっています。

支出の部では、人件費、教育研究経費、管理経費の消費収支科目を除き、借入金返済支出がさくら寮の建設資金借入返済開始により 128 百万円となり、前年度と比べて 69 百万円の増となりました。施設関係支出は 38 百万円で前年度と比べて 963 百万円の減、設備関係支出は 61 百万円と前年度より 28 百万円減となりました。資金運用に係る資産運用支出は、1,007 百万円と前年度 1,801 百万円と比べて 793 百万円減です。

3. 貸借対照表は、資産、負債、基本金及び消費収支差額で構成され、当該年度末の財政状態を表すものです。

2013 年度末では、総資産額は 23,704 百万円となり、前年度末 23,582 百万円から 122 百万円の増加となりました。有形固定資産 345 百万円の減、その他の固定資産は 652 百万円の増、流動資産 183 百万円の減です。

負債は、長期借入金が 1,581 百万円で前年度比 144 百万円の減、前受金が 622 百万円と 66 百万円の減少等により負債全体では、3,488 百万円で前年度末 3,752 百万円から 264 百万円減少となりました。

基本金は、全体で 21,195 百万円となりました。1 号基本金が 188 百万円増、2 号基本金 110 百万円増、3 号基本金 29 百万円の増です。

消費収支差額は、当年度消費収支差額が収入超過 58 百万円により、978 百万円(前年度比 58 百万円減)となりました。基本金と消費収支差額を加えた自己資本は 20,217 百万円となり、総資産に占める自己資金構成比率は、85.2%(前年度末 84.0%)、また、運用資産の蓄積度を示す内部留保資産比率は、29.4%(前年度 29.7%)とほぼ横ばいとなりました。

4. 正味財産は、資産総額 23,704 百万円から負債総額 3,488 百万円を差し引き、2013 年度末で 20,216 百万円となりました。前年度末で 19,830 百万円でしたので 386 百万円増となりました。

## 過去5年間の推移及び構成比率

○資金収支計算書

収入の部					単位 千円
科 目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
学生生徒等納付金収入	4,094,683	4,157,114	4,075,542	3,849,287	3,754,251
手数料収入	83,187	76,969	69,467	74,748	67,491
寄付金収入	53,248	59,919	113,848	61,903	51,622
補助金収入	615,117	645,973	1,093,421	801,521	685,291
資産運用収入	74,734	58,043	105,265	154,010	188,390
資産売却収入	0	300,273	0	0	0
事業収入	6,295	1,999	1,250	910	36,019
雑収入	210,724	306,017	304,971	311,958	164,531
借入金等収入	200,000	400,000	250,000	850,000	0
前受金収入	789,973	715,455	643,717	687,979	621,809
その他の収入	763,865	1,071,338	920,175	1,664,253	816,107
資金収入調整勘定	△ 952,165	△ 1,091,339	△ 1,085,930	△ 939,262	△ 831,036
前年度繰越支払資金	3,122,841	3,206,942	3,152,555	2,920,027	2,618,484
<b>収入の部合計</b>	<b>9,062,502</b>	<b>9,908,703</b>	<b>9,644,281</b>	<b>10,437,334</b>	<b>8,172,959</b>
支出の部					
人件費支出	3,437,137	3,570,687	3,415,927	3,348,831	3,074,287
教育研究経費支出	816,542	866,088	1,481,849	1,007,962	879,004
管理経費支出	227,883	219,561	244,899	290,122	207,926
借入金等利息支出	6,326	5,739	5,011	4,311	3,871
借入金等返済支出	85,660	86,660	88,410	58,250	128,120
施設関係支出	524,763	738,470	325,150	1,001,949	38,830
設備関係支出	114,874	149,007	102,937	90,604	61,635
資産運用支出	478,500	958,001	889,038	1,801,168	1,007,827
その他の支出	269,627	289,783	322,090	336,163	307,135
資金支出調整勘定	△ 105,752	△ 127,848	△ 151,057	△ 120,510	△ 119,556
次年度繰越支払資金	3,206,942	3,152,555	2,920,027	2,618,484	2,583,880
<b>支出の部合計</b>	<b>9,062,502</b>	<b>9,908,703</b>	<b>9,644,281</b>	<b>10,437,334</b>	<b>8,172,959</b>

○資金収支計算書（構成比率）

収入の部					
科 目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
学生生徒等納付金収入	45.18%	41.95%	42.26%	36.88%	45.93%
手数料収入	0.92%	0.78%	0.72%	0.72%	0.83%
寄付金収入	0.59%	0.60%	1.18%	0.59%	0.63%
補助金収入	6.79%	6.52%	11.34%	7.68%	8.38%
資産運用収入	0.82%	0.59%	1.09%	1.48%	2.31%
資産売却収入	0.00%	3.03%	0.00%	0.00%	0.00%
事業収入	0.07%	0.02%	0.01%	0.01%	0.44%
雑収入	2.32%	3.09%	3.16%	2.99%	2.01%
借入金等収入	2.21%	4.04%	2.59%	8.14%	0.00%
前受金収入	8.72%	7.22%	6.68%	6.59%	7.61%
その他の収入	8.43%	10.81%	9.54%	15.94%	9.99%
資金収入調整勘定	-10.51%	-11.01%	-11.26%	-9.00%	-10.17%
前年度繰越支払資金	34.46%	32.36%	32.69%	27.98%	32.04%
<b>収入の部合計</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>
支出の部					
人件費支出	37.93%	36.04%	35.42%	32.08%	37.61%
教育研究経費支出	9.01%	8.74%	15.36%	9.66%	10.76%
管理経費支出	2.51%	2.22%	2.54%	2.78%	2.54%
借入金等利息支出	0.07%	0.06%	0.05%	0.04%	0.05%
借入金等返済支出	0.94%	0.87%	0.92%	0.56%	1.57%
施設関係支出	5.79%	7.45%	3.37%	9.60%	0.48%
設備関係支出	1.27%	1.50%	1.07%	0.87%	0.75%
資産運用支出	5.28%	9.67%	9.22%	17.26%	12.33%
その他の支出	2.98%	2.92%	3.34%	3.22%	3.76%
資金支出調整勘定	-1.17%	-1.29%	-1.57%	-1.16%	-1.46%
次年度繰越支払資金	35.39%	31.82%	30.28%	25.09%	31.61%
<b>支出の部合計</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>

○消費収支計算書

消費収入の部					単位 千円
科 目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
学生生徒等納付金	4,094,683	4,157,114	4,075,542	3,849,287	3,754,251
手数料	83,187	76,969	69,467	74,748	67,491
寄付金	67,517	86,937	127,754	69,238	59,237
補助金	615,117	645,973	1,093,421	801,521	685,291
資産運用収入	74,734	58,044	105,265	154,010	188,390
資産売却差額	0	179	0	0	0
事業収入	6,295	1,999	1,250	910	2,544
雑収入	212,527	307,022	305,948	315,405	282,273
<b>帰属収入合計</b>	<b>5,154,060</b>	<b>5,334,237</b>	<b>5,778,647</b>	<b>5,265,119</b>	<b>5,039,477</b>
基本金組入額合計	△ 230,203	△ 532,757	△ 266,011	△ 174,053	△ 328,511
<b>消費収入の部合計</b>	<b>4,923,857</b>	<b>4,801,480</b>	<b>5,512,636</b>	<b>5,091,066</b>	<b>4,710,966</b>
消費支出の部					
人件費	3,442,041	3,495,832	3,416,615	3,451,071	3,149,055
教育研究経費	1,193,572	1,229,318	1,866,845	1,396,278	1,266,865
管理経費	256,894	245,086	278,358	328,631	222,053
借入金等利息	6,326	5,739	5,011	4,311	3,871
資産処分差額	487	37,748	4,305	20,059	5,907
徴収不能引当金繰入額	3,992	2,462	2,495	656	4,445
徴収不能額	0	0	1,441	0	699
<b>消費支出の部合計</b>	<b>4,903,312</b>	<b>5,016,185</b>	<b>5,575,070</b>	<b>5,201,006</b>	<b>4,652,895</b>
当年度消費収入(△支出)超過額	20,545	△ 214,705	△ 57,434	△ 109,940	58,071
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 676,636	△ 656,091	△ 870,796	△ 928,230	△ 1,036,709
基本金取崩額	0	0		1,461	94
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 656,091	△ 870,796	△ 928,230	△ 1,036,709	△ 978,544

○消費収支計算書（構成比率）

消費収入の部					
科 目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
学生生徒等納付金	79.46%	77.93%	70.53%	73.11%	74.49%
手数料	1.61%	1.44%	1.20%	1.42%	1.34%
寄付金	1.31%	1.63%	2.21%	1.31%	1.18%
補助金	11.93%	12.11%	18.92%	15.22%	13.60%
資産運用収入	1.45%	1.09%	1.82%	2.93%	3.74%
資産売却差額	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
事業収入	0.12%	0.04%	0.02%	0.02%	0.05%
雑収入	4.12%	5.76%	5.30%	5.99%	5.60%
<b>帰属収入合計</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>
基本金組入額合計	-4.47%	-9.99%	-4.60%	-3.31%	-6.52%
<b>消費収入の部合計</b>	<b>95.53%</b>	<b>90.01%</b>	<b>95.40%</b>	<b>96.69%</b>	<b>93.48%</b>
消費支出の部					
人件費	66.77%	65.54%	59.13%	65.54%	62.49%
教育研究経費	23.16%	23.04%	32.31%	26.52%	25.14%
管理経費	4.99%	4.60%	4.82%	6.24%	4.41%
借入金等利息	0.12%	0.11%	0.09%	0.08%	0.08%
資産処分差額	0.01%	0.71%	0.07%	0.38%	0.12%
徴収不能引当金繰入額	0.08%	0.05%	0.04%	0.01%	0.09%
徴収不能額	0.00%	0.00%	0.02%	0.00%	0.01%
<b>消費支出の部合計</b>	<b>95.13%</b>	<b>94.05%</b>	<b>96.48%</b>	<b>98.77%</b>	<b>92.34%</b>

○貸借対照表

	単位 千円				
科 目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
<b>資産の部</b>					
<b>固定資産</b>	<b>18,402,618</b>	<b>18,843,646</b>	<b>19,300,950</b>	<b>20,646,757</b>	<b>20,953,198</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>11,659,223</b>	<b>12,144,843</b>	<b>12,170,508</b>	<b>12,804,534</b>	<b>12,458,702</b>
土地	1,121,456	1,413,586	1,413,585	1,413,585	1,413,585
建物	8,010,131	8,142,314	8,138,346	8,710,216	8,371,195
構築物	117,211	114,071	109,585	190,240	193,250
教育研究用機器備品	334,022	392,198	394,815	359,772	329,987
その他の機器備品	27,244	28,126	32,985	40,731	40,539
図書	2,048,280	2,053,516	2,080,126	2,089,017	2,109,266
車輛	879	1,032	1,066	973	880
建設仮勘定	0	0	0	0	0
<b>その他の固定資産</b>	<b>6,743,395</b>	<b>6,698,803</b>	<b>7,130,442</b>	<b>7,842,223</b>	<b>8,494,496</b>
電話加入権	1,899	1,899	1,899	1,899	1,898
施設利用権	0	0	0	3,288	2,466
ソフトウェア	—	3,181	2,545	22,521	16866
有価証券	100	100	100	100	100
出資金	11,186	11,192	11,197	0	0
長期貸付金	244,938	284,674	325,057	373,159	422,860
退職給与引当特定資産	978,864	904,009	904,697	1,007,958	945,966
減価償却引当特定資産	3,350,066	3,340,717	3,665,577	4,375,315	4,791,336
施設拡充引当特定資産	836,186	850,802	907,822	820,957	931,467
育英運用資金等引当特定資産	—	—	—	88,117	102,939
第3号基本金引当資産	1,073,013	1,092,358	1,117,500	1,148,909	1,178,420
その他の特定資産	246,560	209,288	193,870	—	—
長期運用預金	—	—	—	—	100,000
敷 金	583	583	178	0	178
<b>流動資産</b>	<b>3,406,936</b>	<b>3,467,691</b>	<b>3,318,532</b>	<b>2,935,637</b>	<b>2,751,745</b>
現金預金	3,206,942	3,152,555	2,920,027	2,618,484	2,583,880
未収入金	190,217	303,540	374,380	297,778	144,322
有価証券	0	0	0	0	0
前払金	9,777	11,596	24,125	19,375	23,543
仮払金	0	0	0	0	0
<b>資産の部合計</b>	<b>21,809,554</b>	<b>22,311,337</b>	<b>22,619,482</b>	<b>23,582,394</b>	<b>23,704,943</b>
<b>負債の部</b>					
<b>固定負債</b>	<b>1,479,524</b>	<b>1,718,409</b>	<b>1,908,697</b>	<b>2,733,838</b>	<b>2,527,006</b>
長期借入金	500,660	814,400	1,004,000	1,725,880	1,581,040
退職給与引当金	978,864	904,009	904,697	1,007,958	945,966
<b>流動負債</b>	<b>1,090,719</b>	<b>1,035,565</b>	<b>944,845</b>	<b>1,018,503</b>	<b>961,302</b>
短期借入金	86,660	86,260	58,250	128,120	144,840
未払金	100,655	115,766	139,461	96,385	100,181
前受金	789,973	715,455	643,717	688,239	622,068
預り金	113,431	118,084	103,417	105,759	94,213
<b>負債の部合計</b>	<b>2,570,243</b>	<b>2,753,974</b>	<b>2,853,542</b>	<b>3,752,341</b>	<b>3,488,308</b>
<b>基本金の部</b>					
第1号基本金	17,619,203	18,117,998	18,301,848	18,529,896	18,718,293
第2号基本金	836,186	850,802	907,822	820,957	931,467
第3号基本金	1,073,013	1,092,359	1,117,500	1,148,909	1,178,419
第4号基本金	367,000	367,000	367,000	367,000	367,000
<b>基本金の部合計</b>	<b>19,895,402</b>	<b>20,428,159</b>	<b>20,694,170</b>	<b>20,866,762</b>	<b>21,195,179</b>
<b>消費収支差額の部</b>					
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 656,091	△ 870,796	△ 928,230	△ 1,036,709	△ 978,544
<b>消費収支差額の部合計</b>	<b>△ 656,091</b>	<b>△ 870,796</b>	<b>△ 928,230</b>	<b>△ 1,036,709</b>	<b>△ 978,544</b>
<b>負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計</b>	<b>21,809,554</b>	<b>22,311,337</b>	<b>22,619,482</b>	<b>23,582,394</b>	<b>23,704,943</b>

○貸借対照表（構成比率）

科 目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
<b>資産の部</b>						
<b>固定資産</b>	<b>83.89%</b>	<b>84.38%</b>	<b>84.46%</b>	<b>85.33%</b>	<b>87.55%</b>	<b>88.39%</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>53.29%</b>	<b>53.46%</b>	<b>54.43%</b>	<b>53.81%</b>	<b>54.30%</b>	<b>52.56%</b>
土地	5.24%	5.14%	6.34%	6.25%	5.99%	5.96%
建物	36.29%	36.73%	36.49%	35.98%	36.94%	35.31%
構築物	0.57%	0.54%	0.51%	0.48%	0.81%	0.82%
教育研究用機器備品	1.71%	1.53%	1.76%	1.75%	1.53%	1.39%
その他の機器備品	0.13%	0.13%	0.13%	0.15%	0.17%	0.17%
図書	9.35%	9.39%	9.20%	9.20%	8.86%	8.90%
車輛	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
建設仮勘定	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
<b>その他の固定資産</b>	<b>30.60%</b>	<b>30.92%</b>	<b>30.03%</b>	<b>31.52%</b>	<b>33.25%</b>	<b>35.83%</b>
電話加入権	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%
施設利用権	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0.01%
ソフトウェア	—	—	0.01%	0.01%	0.10%	0.07%
有価証券	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
出資金	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%	0.00%	0.00%
長期貸付金	1.07%	1.12%	1.28%	1.44%	1.58%	1.78%
退職給与引当特定資産	4.55%	4.49%	4.05%	4.00%	4.28%	3.99%
減価償却引当特定資産	15.45%	15.36%	14.98%	16.20%	18.55%	20.21%
施設拡充引当特定資産	3.37%	3.84%	3.81%	4.01%	3.48%	3.93%
育英運用資金等引当特定資産	—	—	—	—	0.37%	0.43%
第3号基本金引当資産	4.92%	4.92%	4.90%	4.94%	4.87%	4.97%
その他の特定資産	1.18%	1.13%	0.94%	0.86%	—	0.00%
長期運用預金	—	—	—	—	—	0.42%
敷 金	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
<b>流動資産</b>	<b>16.11%</b>	<b>15.62%</b>	<b>15.54%</b>	<b>14.67%</b>	<b>12.45%</b>	<b>11.61%</b>
現金預金	14.59%	14.70%	14.13%	12.91%	11.11%	10.90%
未収入金	1.50%	0.87%	1.36%	1.65%	1.26%	0.61%
有価証券	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
前払金	0.02%	0.05%	0.05%	0.11%	0.08%	0.10%
仮払金	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
<b>資産の部合計</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>
<b>負債の部</b>						
<b>固定負債</b>	<b>6.35%</b>	<b>6.78%</b>	<b>7.70%</b>	<b>8.44%</b>	<b>11.59%</b>	<b>10.66%</b>
長期借入金	1.81%	2.29%	3.65%	4.44%	7.32%	6.67%
退職給与引当金	4.54%	4.49%	4.05%	4.00%	4.27%	3.99%
<b>流動負債</b>	<b>4.96%</b>	<b>5.00%</b>	<b>4.64%</b>	<b>4.18%</b>	<b>4.32%</b>	<b>4.06%</b>
短期借入金	0.40%	0.40%	0.39%	0.26%	0.54%	0.61%
未払金	0.44%	0.46%	0.52%	0.62%	0.41%	0.42%
前受金	3.56%	3.62%	3.20%	2.84%	2.92%	2.62%
預り金	0.56%	0.52%	0.53%	0.46%	0.45%	0.40%
<b>負債の部合計</b>	<b>11.31%</b>	<b>11.78%</b>	<b>12.34%</b>	<b>12.62%</b>	<b>15.91%</b>	<b>14.72%</b>
<b>基本金の部</b>						
第1号基本金	81.84%	80.79%	81.21%	80.91%	78.58%	78.96%
第2号基本金	3.37%	3.83%	3.81%	4.01%	3.48%	3.93%
第3号基本金	4.92%	4.92%	4.90%	4.94%	4.87%	4.97%
第4号基本金	1.72%	1.68%	1.64%	1.62%	1.56%	1.55%
<b>基本金の部合計</b>	<b>91.85%</b>	<b>91.22%</b>	<b>91.56%</b>	<b>91.48%</b>	<b>88.49%</b>	<b>89.41%</b>
<b>消費収支差額の部</b>						
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	-3.16%	-3.00%	-3.90%	-4.10%	-4.40%	-4.13%
<b>消費収支差額の部合計</b>	<b>-3.16%</b>	<b>-3.00%</b>	<b>-3.90%</b>	<b>-4.10%</b>	<b>-4.40%</b>	<b>-4.13%</b>
<b>負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>

## VI. 資料

### 1. 理事会、評議員会の開催状況

#### (1) 理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2013（平成25）年 5月27日（月） （定期）	1. 2012年度事業報告（案）について 2. 2012年度決算（案）について 3. 2012年度資産運用報告について 4. 名誉教授称号の授与について
7月30日（火） （定期）	1. 寄附行為及び同施行細則の改正について 2. 役職上理事等の職務権限に関する規程の制定について 3. 学院長候補者選考委員会からの中間報告について
8月27日（火） （臨時）	1. 寄附行為及び同施行細則の改正案について 2. 次期学院長の選任について
9月24日（火） （定期）	1. 2014年度予算編成の基本方針について 2. 大学副学長制導入に伴う学則の改定について
10月29日（火） （臨時）	1. 寄附行為第19条第3項第2号及び第3号評議員の選出について 2. 寄附行為第8条第1項第7号理事並びに 同第19条第3項第4号及び第5号評議員の選任について
11月12日（火） （定期）	1. 監事の選任について 2. 寄附行為第8条第1項第5号理事（教職員評議員互選）の選任について 3. 寄附行為第8条第1項第8号理事（評議員選出）の選任について 4. 理事長の選任について 5. 常務理事の選任について 6. 名誉理事の推薦について
12月3日（火） （臨時）	1. 理事会の運営体制等について
2014（平成26）年 1月28日（火） （定期）	1. 学長の選任について 2. 認定こども園の設置計画について（報告） 3. 全館トイレ改修計画について
3月18日（火） （定期）	1. 2014年度事業計画（案）について 2. 2014年度借入計画について 3. 第2号基本金組入計画について 4. 創立130周年記念事業募金計画について 5. 2014年度予算（案）について 6. 宗教総主事の選任について 7. 大学学則の改定について 8. 大学院学則の改定について



## (2) 常任理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2013（平成 25）年 4月2日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仙台労働基準監督署への是正報告（2回目）について</li> <li>2. 衛生委員会委員について</li> <li>3. 2012年度大学等経常費補助金の総括について</li> </ol>
4月9日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職員選出理事制度の見直し及び副学長制の導入について</li> <li>2. 理事会運営に関わる諸会議・委員会等について</li> <li>3. 学院長の日常的な職務の状況と学院長代行が担う職務について</li> <li>4. 副校長に係る役職手当の新設について</li> <li>5. 移転後の旧橄欖寮の利用について</li> <li>6. 養護教諭の臨時的補充について</li> <li>7. 高校3年生のための小論文チューター採用について</li> </ol>
4月16日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年度専任事務職員（新卒）採用計画について</li> <li>2. 宮城学院教育環境整備資金（第2期）について</li> </ol>
4月23日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護教諭の臨時的補充について</li> <li>2. 宮城学院教育環境整備資金（第2期）について（継続）</li> <li>3. 2012年度私立学校運営費補助金総括について</li> <li>4. 訴訟について（中高寮関係）</li> </ol>
4月30日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年度被災受験生に対する入学検定料免除措置について</li> <li>2. 仙台労働基準監督署への是正報告（最終）について</li> <li>3. 「卒業生データベース」構想の構築と卒業生支援の在り方の検討について</li> <li>4. 2014年度アドミッションズ・オフィス入学試験（AO入試）導入について</li> <li>5. 「宮城学院女子大学教授会役員選挙規程」等の改定について</li> <li>6. 2013年度宮城学院女子大学修学支援給付奨学金申請について</li> </ol>
5月7日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 台湾国立高雄大学との交流協定締結について</li> <li>2. 中高「午後8時校舎施錠」について</li> </ol>
5月14日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2012年度事業報告（案）について</li> <li>2. 2013年度大学教員組合・大学副手組合への一時金回答について</li> <li>3. 中高教員の退職について</li> <li>4. 育児・介護休業制度等に係る訪問調査について</li> </ol>
5月20日（月）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2012年度事業報告（案）について</li> <li>2. 2012年度決算（案）について</li> <li>3. 中高特待生・準特待生制度廃止に伴う移行措置について</li> </ol>
6月4日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2013年度大学修学支援給付奨学金申請について（追加）</li> <li>2. 中高寮（青桜シャロン寮）の存廃の方針について</li> <li>3. 中高特待生・準特待生制度の廃止と移行措置について</li> <li>4. 中高教職員組合及び事務関係職員組合への一時金回答について</li> </ol>
6月11日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事会運営体制等検討委員会からの報告と提案</li> <li>2. 大学教員の退職について</li> <li>3. 病気休暇に伴う中高代替非常勤講師の採用について</li> <li>4. 青桜シャロン寮の募集停止中高方針と今後の方策について</li> <li>5. 中高図書室の改修について</li> <li>6. 宮城学院プールボー奨学金に関する規程の一部見直しについて</li> </ol>

6月18日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気休暇に伴う中高代替非常勤講師の採用について</li> <li>2. 2014年度教員採用計画の申請について</li> <li>3. 臨時職員の就業に関する規程の一部改正について</li> <li>4. 宮城県私立学校授業料等軽減特別補助金への対応について</li> </ol>
6月25日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年度大学教員人事計画について</li> <li>2. 大学からの次期学長選考に関わる要請について</li> <li>3. 2013年度内部監査実施計画について</li> </ol>
7月2日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 退職に伴う常勤講師の採用について</li> <li>2. 2013年度「宮城学院奨学会奨学金」(前期)に関する検討について</li> <li>3. 空中歩廊屋根改修工事の契約について</li> <li>4. 中高ビジョンに係る中高側の検討状況について</li> <li>5. 特別委員会の設置について</li> </ol>
7月9日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事務局人事配置について</li> <li>2. 事務職員給与体系の見直しについて</li> <li>3. 2014年度再雇用対象者の希望状況について</li> <li>4. 2013年度幼稚園被災学生支援授業料減免について</li> <li>5. 旧橄欖寮の不動産鑑定評価結果と今後の方針について</li> </ol>
7月16日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寒冷地手当の支給率改定について</li> <li>2. 2014年度専任事務職員(新卒者)の採用について</li> </ol>
7月23日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寄附行為及び同施行細則の改正案について</li> <li>2. 事務局主幹の配置について</li> <li>3. 2014年度特別研修休暇について</li> <li>4. 2014年度海外研修員について</li> <li>5. 学科改組及び認定こども園の設置費等について</li> <li>6. 学科改組等準備室の設置について</li> </ol>
8月6日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寒冷地手当の見直しについて</li> <li>2. 2014年度大学教員人事計画について</li> <li>3. 副学長制導入の回答について</li> <li>4. 二号特任教員に関する規程等の整備について</li> </ol>
9月3日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中高専任教員の退職について</li> <li>2. 創立130周年記念事業の計画について</li> <li>3. 平成26年度文部科学省概算要求について</li> </ol>
9月10日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校高等学校の中高大連携プログラムについて</li> <li>2. 2013年度大学修学支援給付奨学金申請について</li> <li>3. 2013年度中高被災学生支援授業料減免について</li> </ol>
9月17日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年度予算編成の基本方針について</li> <li>2. 大学副学長制導入に伴う学則の改定について</li> <li>3. 大学入学者選抜の実施に関する規程の改定について</li> <li>4. 2013年度中高修学支援給付奨学金申請について</li> </ol>
10月1日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別研修休暇辞退について</li> <li>2. 学芸学部のカリキュラム改定について</li> <li>3. 大学協議会規程の制定について</li> <li>4. 役員、評議員改選に向けての今後の理事会・評議員会日程について</li> </ol>

	5. 2013年度教職員永年勤続者の表彰について
10月8日(火)	1. 宮城学院女子大学附属「森のこども園(仮称)」開設について 2. 大学教育組織の改革及び市場調査について 3. 事務職員の復職について 4. 事務組合からの要求と回答について 5. 中高常勤講師の採用規程の見直しについて
10月15日(火)	1. 副学長制導入に係る任期等について 2. 副学長制導入に伴う教授会規程等の改定について 3. 就業規則改正に向けた取組みについて 4. 大学修学支援給付奨学金(在学学生)申請について
10月22日(火)	1. 中高専任教員の退職について 2. 中高専任教員採用計画について 3. 認定こども園の試算について 4. 青桜シャロン寮の活用方法について
11月5日(火)	1. 「看護学」(食品栄養学科)担当特任教員の採用について 2. 2014年度二号特任教員の採用について 3. 中高専任教員の退職について 4. 2013年度「宮城学院奨学会奨学金」(後期)に関する検討について
11月12日(火)	1. 名誉理事の推薦について 2. 常務理事の選任について
11月19日(火)	1. 「応用言語学あるいは英語教育学」(英文学科)担当特任教員の採用について 2. 大学教員の退職について 3. 副学長制導入に伴う規程の改正について 4. 大学教授会規程及び同教授会役員選挙規程の改定について 5. 大学期間を定めて任用する教員に関する規程の改定について 6. 嘱託職員の賞与の見直しについて 7. 東日本大震災における入学検定料免除措置申請について 8. 認定こども園に向けた敷地選定について
11月26日(火)	1. 理事会運営体制について 2. 特別委員会からの報告について 3. 2013年度上半期資産運用状況報告について 4. 大学修学支援給付奨学金(入学前予約)の申請について 5. 東日本大震災により被災した生徒の支援策への申請について 6. 認定こども園について(継続) 7. 障害者雇入れ計画の策定について
12月10日(火)	1. 2014年度中高契約教員(特任教師・常勤講師)の採用計画について 2. 2014年度事務局嘱託職員の採用計画について 3. 認定こども園について(継続)
12月17日(火)	1. 2014年度大学教員採用計画について 2. 事務職員の退職について 3. 地域連携センターの設置について 4. TOEICの賛助会員化とその予算立てについて

12月24日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学長候補者選考の結果について</li> <li>2. 「日本文化論」(日本文学科)担当教員の採用について</li> <li>3. 「教育学(理科)」(児童教育学科)担当教員の採用について</li> <li>4. 2015年度大学教員人事計画(教職センター主任)について</li> <li>5. 学芸学部臨時助手(フルタイム)4名、学芸学部臨時助手(パートタイム)2名および学芸臨時助手【食品栄養学科】1名の採用人事計画について</li> <li>6. 附属幼稚園臨時教諭(4名)の採用人事計画について</li> <li>7. 学生相談室インテーカー(若干名)の採用人事計画について</li> <li>8. 中高提案による「中高ビジョン案」について</li> </ol>
2014(平成26)年 1月6日(月)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 諸報告</li> </ol>
1月14日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全館トイレ改修計画について</li> <li>2. 2014年度中学校入試結果について</li> <li>3. 認定こども園について(継続)</li> <li>4. 中高ニューヨーク研修について</li> </ol>
1月21日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中高常勤講師の採用について</li> <li>2. 事務嘱託職員の契約更新について</li> <li>3. 2014年度事務嘱託職員(広報)の採用について</li> <li>4. 中高非常勤講師規程の制定について</li> <li>5. 事務職員給与体系見直しについて</li> <li>6. 認定こども園について(継続)</li> </ol>
2月3日(月)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活文化デザイン学科実験・演習系授業補助員1名の採用人事計画について</li> <li>2. 学芸学部臨時助手【発達臨床学科】1名の採用人事計画について</li> <li>3. 児童教育学科・教育実習指導授業補助員1名の採用人事計画について</li> <li>4. 2014年度事務職員採用計画について</li> </ol>
2月10日(月)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 諸報告</li> </ol>
2月18日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園臨時教諭の採用計画について</li> <li>2. 寒冷地手当廃止に向けて</li> <li>3. 中高入試分析について</li> <li>4. 130周年記念事業及び募金について</li> <li>5. 2014年度資金運用計画について</li> <li>6. 2014年度中高特任講師、常勤講師及び非常勤講師の配置計画について</li> </ol>
2月25日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年度大学役員選挙の報告について</li> <li>2. 「特別支援教育」(児童教育学科)担当特任教員の採用について</li> <li>3. 「教職センター主任」担当特任教員の採用について</li> <li>4. 「学芸学部臨時助手及び学芸学部臨時助手(食品栄養学科)」の採用について</li> <li>5. 2013年度内部監査結果報告について</li> <li>6. 内部監査室分掌規程の一部改正について</li> <li>7. 中高外部評価制度について</li> </ol>
3月4日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年度事業計画(案)について</li> </ol>

	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 2014年度予算（案）について</li> <li>3. 2014年度4月事務局人事配置について</li> <li>4. 創立130周年記念事業募金計画について</li> <li>5. 河北新報社との協定書について</li> <li>6. 幼稚園預かり保育待機児童解消加速化プランの申請等について</li> <li>7. 大学教育組織の改革に向けたデータの購入について</li> <li>8. 保健センター婦人科系校医の委嘱について</li> </ol>
3月11日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年度事業計画（案）について</li> <li>2. 2014年度借入計画について</li> <li>3. 第2号基本金組入計画について</li> <li>4. 2014年度予算（案）について</li> <li>5. 宗教総主事の選任について</li> <li>6. 事務職員の退職について</li> <li>7. 附属幼稚園臨時教諭（4名）の採用について</li> <li>8. 「生活文化デザイン学科実験・演習系授業補助員」の採用について</li> <li>9. 「児童教員学科・教育実習指導補助員」の採用について</li> <li>10. 「学芸学部臨時助手（発達臨床学科）」の採用について</li> <li>11. 「学芸学部臨時副手」の採用について</li> <li>12. 大学学則の変更について</li> <li>13. 大学院学則の変更について</li> <li>14. 大学地域連携センター規程について</li> <li>15. 森のこども園の建設計画に係る委員会の設置について</li> <li>16. 2014年度からの中高の新しい時程について</li> <li>17. 創立130周年記念事業募金計画について</li> </ol>
3月25日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学承認人事について</li> <li>2. 事務嘱託職員（MG-LAC）の採用について</li> <li>3. 休職者の復職について</li> <li>4. 2014年度大学院役員選挙及び教授会役員補充選挙結果について</li> <li>5. 2014年度中高役職者について</li> <li>6. 2014年年度幼稚園役職者について</li> <li>7. 「学芸学部臨時副手」の採用について</li> <li>8. 学生相談室インターカー（3名）の採用について</li> <li>9. 変形労働時間制の導入に伴う協定の締結について</li> <li>10. 事務組織規程の一部改正について</li> <li>11. 副学長の役職手当の見直しについて</li> <li>12. 特別委員会からの報告について</li> </ol>

### (3) 評議員会の開催状況

開催年月日	議 題
2013（平成25）年 5月27日（月） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2012年度事業報告（案）について</li> <li>2. 2012年度決算（案）について</li> </ol>
8月27日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寄附行為及び同施行細則の改正案について</li> </ol>

(臨時)	2. 次期学院長の選任について
11月12日(火) (定期)	1. 寄附行為第8条第1項第8号理事(評議員選出)の選出について 2. 監事の選任について
2014年(平成26)年 3月18日(火) (定期)	1. 2014年度事業計画(案)について 2. 2014年度借入計画について 3. 創立130周年記念事業募金計画について 4. 2013年度予算(案)について

## 2. 法人、大学、中学校高等学校及び幼稚園の主要な行事等の実施経過

### (1) 法人(理事会・評議員会を除く)

年月日	行事等
2013(平成25)年 4月1日 17日 19日 24日 30日	新任教職員辞令交付式 全学院教職員礼拝 学院広報会議 衛生委員会 公認会計士監査
5月11日 14日～15日 15日 17日 24日	校長就任式 公認会計士監査 監事・公認会計士懇談 全学院教職員礼拝 危機管理委員会 監事監査 産業医健康相談
6月11日 25日 26日 28日	公認会計士監査 監事懇談会 全学院教職員礼拝 産業医健康相談
7月12日 17日 26日	学院広報会議 全学院教職員礼拝 産業医健康相談 全学院協議会
8月12日～17日 19日	一斉休暇 事務職員全体研修会
9月12日 18日 27日 30日	墓前礼拝 第8回宮城学院建学の精神研修会 全学院協議会 産業医健康相談 公認会計士監査
10月4日 21日 25日	学院広報会議 監事懇談会 産業医健康相談 全学院協議会

30日	全学院教職員礼拝、永年勤続者表彰式、永年勤続者を囲んでの茶話会 ハラスメント防止委員会
11月1日 8日 13日 15日 20日 22日 29日	ハラスメント防止研修会 危機管理委員会 全学院教職員礼拝 学院広報会議 奨学金選考委員会 産業医健康相談 全学院協議会
12月3日 3日～19日 7日 13日 17日 18日 20日	クリスマスイルミネーション点灯式 ハートフル・ミュージアム“クリスマスのよろこ美展” 宮城学院クリスマス・チャペルコンサート 宮城学院クリスマス礼拝・クリスマス祝会 公認会計士監査 公認会計士監査 奨学生選考委員会 産業医健康相談
2014（平成26）年 1月4日 6日 24日 27日 28日	仕事始め 全学院新年礼拝 産業医健康相談 危機管理委員会 学院広報会議
2月18日 19日 21日 22日 28日	全学院協議会 全学院教職員礼拝 学院広報会議 ハートフルボランティア報告会 産業医健康相談
3月11日 14日 24日 25日 26日～27日	東日本大震災記念礼拝 ハラスメント防止委員会 産業医健康相談 学院広報会議 退職者辞令交付式 公認会計士監査

## (2) 大学院・大学

年月日	行事等
2013（平成25）年 4月4日 5日～8日 9日	入学式 新入学生・編入学生・在学生ガイダンス 前期授業開始
5月16日	新入生歓迎会
6月1日	大学後援会総会

6～7日 12日 22日	日本文学基礎演習研修旅行 キリスト教教育特別集会（3校時休講） オープンキャンパス
7月27日 30日～8月2日	オープンキャンパス 補講
8月3日 5日～7日 5日～21日 5日～9月19日 18日～9月9日 19日～31日 31日	前期授業終了日 連続講義 国際文化学科海外実習（タイ） 夏期休業 英文学科海外研修（イギリス） 連続講義 秋田地区大学後援会総会、福島地区大学後援会総会 岩手地区大学後援会総会
9月7日～17日 20日 28日	AO入試一次選考期間 後期授業開始 9月期卒業・修了者学位記授与式 オープンキャンパス
10月5日 10日 18日～21日 26日 28日	AO入試二次選考 AO入試合格発表 大学祭 第1回大学院入学試験 第1回大学院入学試験合格発表
11月16日 21日	推薦入試・編入学・TOEIC編入学・特別入試、転学科試験 推薦入試・編入学・TOEIC編入学・特別入試、転学科試験合格発表
12月7日 12日 24日 26日 27日～1月4日	オープンキャンパス クリスマス礼拝 授業終了日 補講 冬期休業
2014（平成26）年 1月6日 17日～19日 28日～31日	授業開始日 大学センター試験 補講
2月1日 2日～3日 4日 5日～8日 5日～14日 8日 22日 24日	後期授業終了日 音楽科入学試験専門試験 一般入学試験（A日程入試）・センター試験利用入学試験 学外実習に伴う補講（発達臨床学科2・3年） 連続講義 一般入学試験（A日程入試）・センター試験利用入学試験合格発表 第2回大学院入学試験 第2回大学院入学試験合格発表
3月5日 8日	一般入学試験（B日程入試）・センター試験利用・特別入学試験 一般入学試験（B日程入試）・センター試験利用・特別入学試験合格発表



20日	学位記授与式
-----	--------

### (3) 中学校高等学校

年 月 日	行 事 等
2013（平成25）年 4月8日 9日 11日 19日～20日 23日 27日	始業式 中学校入学式、高等学校入学式 新中1オリエンテーション 新高1オリエンテーション 新中1学習オリエンテーション 新高1オリエンテーションキャンプ イースター礼拝 PTA総会
5月8日 10日 11日 18日 20日～25日 27日 28日	高等学校運動会 高等学校母の日礼拝 中学校母の日礼拝 中学校運動会 キリスト教教育週間 高等学校ペンテコステ礼拝 中学校ペンテコステ礼拝
6月1日～3日 6日 8日～10日	宮城県高校総体 中学校花の日礼拝 仙台市中学総体
7月2日～3日 10日 13日 19日 20日～8月22日 26日	中学校2年キャンプ 芸術鑑賞会 中学校オープンキャンパス 終業 夏期休業 高等学校オープンキャンパス
8月1日 2日 3日 5日 6日 7日 23日 30日～31日	大河原地区PTA 富谷地区PTA 塩釜・松島地区PTA 古川地区PTA 石巻・気仙沼地区PTA 岩沼・亘理・名取地区PTA 始業 高等学校1・2年スタディサポート 文化祭
9月6日 13日 26日	塾対象学校説明会 創立記念礼拝 中学校創立記念行事 終業式
10月1日	始業式

2日～4日	中学校3年校外研修旅行
12日～13日	中学校仙台市新人大会
24日	高等学校スポーツ大会
30日	高等学校宗教改革記念礼拝
31日	中学校宗教改革記念礼拝
11月5日～8日	高等学校2年校外研修旅行
2日	中学校入試説明会
9日	中学校合唱コンクール 高等学校入試説明会
15日	PTA理事会
16日	中学校入試対策講座
21日	中学校収穫感謝礼拝
22日	高等学校収穫感謝礼拝
12月21日	クリスマス礼拝、終業
23日～1月8日	冬期休業
2014(平成26)年	
1月7日	中学校入学試験
8日	中学校入学試験合格発表
9日	始業
15日	高等学校推薦入学試験
29日	高等学校入学試験A日程
31日	高等学校入学試験B日程
2月5日	高等学校入学試験合格発表
14日	中学校3年生を送る会
28日	高等学校卒業礼拝
3月1日	高等学校卒業証書授与式
19日	中学校卒業証書授与式
22日	終業式
26日	新高1オリエンテーション
27日	新中1オリエンテーション 新高1スタディサポート

#### (4) 大学附属幼稚園

年 月 日	行 事 等
2013(平成25)年	
4月9日	第1学期始業式 進級オリエンテーション
11日	入園式
26日	イースター礼拝
5月14日	PTA総会
21日	春の親子遠足
6月14日	花の日礼拝
7月5日	七夕会

18日	第1学期終業式
19日～20日	5歳児お泊り会
19日～8月24日	夏期休業
8月26日	第2学期始業式
9月6日	創立記念親子礼拝
21日	運動会
10月3日	入園説明会
4日	秋の遠足
11月1日	入園願書受付日
15日	収穫感謝礼拝
22日	もちつき
30日	第1回新入園児オリエンテーション
12月12日	クリスマス祝会①（うさぎ・すみれ・ばら組）
13日	クリスマス祝会②（ひよこ・たんぽぽ・ゆり組）
19日	クリスマス礼拝
	第2学期終業式
20日	第2回新入園児オリエンテーション
20日～1月9日	冬期休業
2014（平成26）年	
1月10日	第3学期始業式
2月3日	豆まき
20日	生活発表会①（ひよこ・たんぽぽ・ゆり組）
21日	生活発表会②（うさぎ・すみれ・ばら組）
3月7日	お別れ会
13日	修了礼拝
17日	修了式
19日	第3学期終業式
24日	第3回新入園児オリエンテーション

### 3. 補助金の状況

○私立大学等経常費補助金<日本私立学校振興・共済事業団>（平成25年度）

2014年3月31日現在

学校別	区 分	補助事業に要する経費（円）	補助金額（円）	
大学	専任教員等給与費（ア＋イ）	1,186,693,000	140,805,000	
	内 訳	ア. 専任教員等給与費	1,096,826,000	126,040,000
		イ. 私立大学退職金財団掛金	89,867,000	14,765,000
	専任職員給与費（ア＋イ）	562,630,000	62,794,000	
	内 訳	ア. 専任職員給与費	517,648,000	56,335,000
		イ. 私立大学退職金財団掛金	44,982,000	6,459,000
	非常勤教員給与費	185,732,000	8,547,000	
	教職員福利厚生費	195,182,000	19,971,000	
	教育研究経常費	776,650,000	113,290,000	
	厚生補導費	34,337,000	2,690,000	
	研究旅費	25,339,000	1,539,000	
	合 計		2,966,563,000	349,636,000

○特別補助（教育研究経常費の内数）内訳表

項目	補助金額（円）
I 成長力強化に貢献する質の高い教育	2,111,000
成長力強化に貢献する質の高い教育	2,111,000
II 社会人の組織的な受入れへの支援	3,029,000
正規学生としての受入れへの支援	2,111,000
多彩な形態による受入れに対する支援	92,000
社会人の受入れ環境整備への支援	826,000
III 大学等の国際交流の基盤整備への支援	2,202,000
大学等の国際交流の基盤整備への支援	2,202,000
IV 大学院等の機能の高度化への支援	2,423,000
大学院等の機能の高度化への支援	2,423,000
V 授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	13,690,000
授業料減免事業等支援経費	13,490,000
学生の経済的支援体制の充実	200,000
V 東日本大震災に係る支援	20,611,000
授業料減免事業等支援経費（震災分）	17,111,000
被災私立大学等復興特別補助	3,500,000
合計	44,066,000

○私立学校運営費補助金<県補助> (平成 25 年度)

	内訳				補助対象経費 1/2	補助金額 (円)
	人件費 (円)	経費 (円)	設備費 (円)	計 (円)		
高等学校	358,391,977	125,174,428	1,080,942	484,647,347	242,323,674	184,406,000
中学校	206,665,913	68,164,278	254,742	275,084,933	137,542,467	66,865,000
幼稚園	63,464,055	17,558,215	68,765	81,091,035	40,545,518	24,422,000
合計	628,521,945	210,896,921	1,404,449	840,823,315		275,693,000

○私立高等学校授業料軽減事業補助金<県補助> (平成 25 年度)

事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
授業料免除 10 名分	2,438,385	1,989,000

○私立学校教育改革推進特別経費補助金<県補助> (平成 25 年度)

区分 学校別	補助対象経費		補助金額 (円)
	人件費 (円)	経費 (円)	
高等学校	358,391,977	0	300,000
幼稚園	63,464,055	0	1,360,000
合計	421,856,032	0	1,660,000

○仙台市私立学校振興補助金<市補助> (平成 25 年度)

区分 学校別	補助対象経費				補助金額 (円)
	図書購入費 (円)	教材教具 購入費 (円)	学校管理用 備品購入費 (円)	計 (円)	
高等学校	600,951	826,707	1,035,990	2,463,648	2,300,000
中学校	383,764	0	0	383,764	372,400

○仙台私立幼稚園幼児教育施設運営費補助金<市補助> (平成 25 年度)

区分	購入経費 (円)	補助金額 (円)
園具費・教材教具費	368,487	346,000

○仙台市預かり保育推進事業補助金<市補助> (平成 25 年度)

事業名称	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
預かり保育	654,431	649,500

○私立学校特別支援教育教育費補助金<県補助> (平成 25 年度)

事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
人件費	2,625,000	1,568,000

○結核定期健康診断補助金<市補助> (平成 25 年度)

事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
結核定期健康診断	144,060	64,941

○私立高等学校等 IT 教育設備整備推進事業補助金＜県補助＞（平成 25 年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
設備整備費	9,943,279	4,971,000

○私立高等学校授業料軽減特別事業補助金＜県補助＞（平成 25 年度）

学校別	事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
高等学校	入学金・授業料・施設設備資金・教育充実資金免除 82 名分	23,825,829	23,825,000
中学校	入学金・授業料・施設設備資金・教育充実資金免除 37 名分	13,888,318	13,888,000
幼稚園	入園料・授業料・教育充実資金免除 10 名分	2,776,960	2,776,960

○仙台市私立幼稚園認定こども園整備事業補助金＜市補助＞（平成 25 年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
設備整備費	495,430	371,000

○私立大学等研究設備整備費等補助金（平成 24 年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
研究設備整備費	19,645,605	9,822,000

○科学研究費補助金＜文部科学省・日本学術振興会補助＞（平成 25 年度）

学校別	研究代表者	研究区分	補助金額（円） （直接経費）	補助金額（円） （間接経費）
大 学	林 基哉	基盤研究 (A) 継続	1,600,000	480,000
	鈴木 雅之	基盤研究 (C) 継続	500,000	150,000
	木口 寛久	基盤研究 (C) 継続	1,200,000	360,000
	市野澤 潤平	基盤研究 (C) 継続	1,200,000	360,000
	西浦 和樹	基盤研究 (C) 継続	500,000	150,000
	菊池 勇夫	基盤研究 (C) 継続	1,000,000	300,000
	足立 智昭	基盤研究 (C) 継続	1,100,000	330,000
	戸野塚 厚子	基盤研究 (C) 継続	900,000	270,000
	友野 隆成	若手研究 (B) 継続	800,000	240,000
	後藤 純子※1	基盤研究 (C) 新規	1,100,000	330,000
	木村 春美	基盤研究 (C) 新規	1,300,000	390,000
	大平 聡	基盤研究 (C) 新規	800,000	240,000
	田中 一裕	基盤研究 (C) 新規	2,400,000	720,000
	遊佐 典昭	挑戦的萌芽研究 新規	1,000,000	420,000
	遠藤 みどり※2	特別研究員奨励費 新規	1,100,000	—

※1 キリスト教文化研究所 客員研究員

※2 特別研究員

#### 4. 入学志願者、合格者、入学者数

(2013年5月1日 学校基本調査)

				入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
大 学 院	修 士 課 程	人 文 科 学 研 究 科	英語・英米文学専攻	4	0	0	0
			日本語・日本文学専攻	4	1	1	1
			人間文化学専攻	4	3	3	3
			生活文化デザイン学専攻	4	0	0	0
	健康栄養学 研究科	健康栄養学専攻	4	3	3	3	
大学院合計				20	7	7	7

				入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
大 学	学 部	英文学科	90	202	184	92	
		日本文学科	100	247	208	112	
		人間文化学科	90	183	158	55	
		音楽科	35	46	46	30	
		食品栄養学科	100	496	164	102	
		生活文化デザイン学科	70	193	164	87	
		発達臨床学科	80	346	183	88	
		国際文化学科	90	217	187	83	
		心理行動科学科	50	187	136	57	
		児童教育学科	50	255	123	56	
大学合計				755	2,363	1,553	762
3年次編入学				—	5	4	3

				入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
高等学校				260	825	786	196
中学校				160	82	78	73

		定員	志願者数	合格者数	入学者数
幼稚園	3歳児	—	35	—	35
	4歳児		17	—	17
	5歳児		2	—	2
幼稚園計		152	54	—	54

※「5. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児数」(P5)の1年生の数は在籍者数(休学者・留年者・留学者・再入学者等を含む数)となっており、本データの入学者数と同数ではない。

## 5. 2013 年度就職内定状況

(2014 年 5 月 1 日現在)

学部	学科	卒業学生数 (A)	求職者数 (B)	就職内定者数 (C)	内定率 (C) / (B)
学芸学部	英文学科	115	96	91	94.8%
	日本文学科	111	90	72	80.0%
	人間文化学科	99	90	74	82.2%
	音楽科	24	15	15	100.0%
	食品栄養学科	104	100	100	100.0%
	生活文化デザイン学科	69	63	59	93.7%
	発達臨床学科	76	72	71	98.6%
	国際文化学科	123	106	87	82.1%
	心理行動科学科	45	40	34	85.0%
	児童教育学科	63	54	53	98.1%
	合計	829	726	656	90.4%